

ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 21



1988

沖縄県立博物館

序

昭和62年度の事業の報告をいたします。

62年度は、10～11月にかけて海邦国体の一環（スポーツ芸術）として特別展「沖縄近代の絵画展」を開きました。物故作家15名22点の作品を一堂に展示して好評を得ました。また次の三つの企画展を開催しました。

1、新収蔵品展

昭和61年度に寄贈・購入・収集した資料の展示会。

2、田名家所蔵品展—ある首里士族の400年—

麻氏宗家田名弘氏のご協力による国指定重要文化財「田名家文書」(32通)・「麻姓家譜」及び田名家収蔵品（書画・漆器・陶器・古文書・典籍等）の展示会。

3、現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション—

昭和61年2月寄贈の故天野鉄夫氏の戦前・戦後の壺屋焼を中心としたコレクション(1500点余)のなかから金城次郎・小橋川源慶・石川喜進等の名工の作品の展示会。

そのほか第11回の移動博物館は多良間村で開催し、文化講座も62年度は13回開講して延べ160回をかぞえました。

62年度も多くの方々のご協力により資料の充実を図ることができました。米国から133年ぶりに里帰りした「旧大安禪寺鐘」をはじめ、貴重な資料を収蔵することができました。

総合博物館としての施設の拡充等があいかわらずの大きな課題ですが、尚一層努力したいとおもいます。

昭和63年6月

沖縄県立博物館長 大城宗清

目 次

序	館長 大城宗清
I 概要		
1 沿革	1
2 施設・設備	3
3 予算	5
4 組織	6
II 入館者数		
1 入館者数	8
2 県内外児童生徒学生団体見学者	10
III 展示活動		
1 常設展	12
2 特別展	15
3 企画展	17
4 移動博物館	24
IV 教育普及活動		
1 博物館文化講座	28
2 刊行物	29
V 調査研究活動		
1 調査研究	30
2 著作論文	33
VI 収蔵資料		
1 収蔵資料現在高	36
2 昭和62年度収蔵資料および目録	36
3 所蔵国県指定文化財	39
VII その他の活動		
1 資料貸出	40
2 煙蒸処理	40
3 沖縄県博物館協会	40
4 沖縄県立博物館友の会	41
VIII 日誌抄	42
IX 関係条例規則抄録	49

※表紙写真：旧大安禪寺鐘

I 概 要

1 沿 革

〔前史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年には「琉球政府立博物館」と改称。また、41年には現敷地に新館を建設して移転する。47年の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

〔主な事項〕

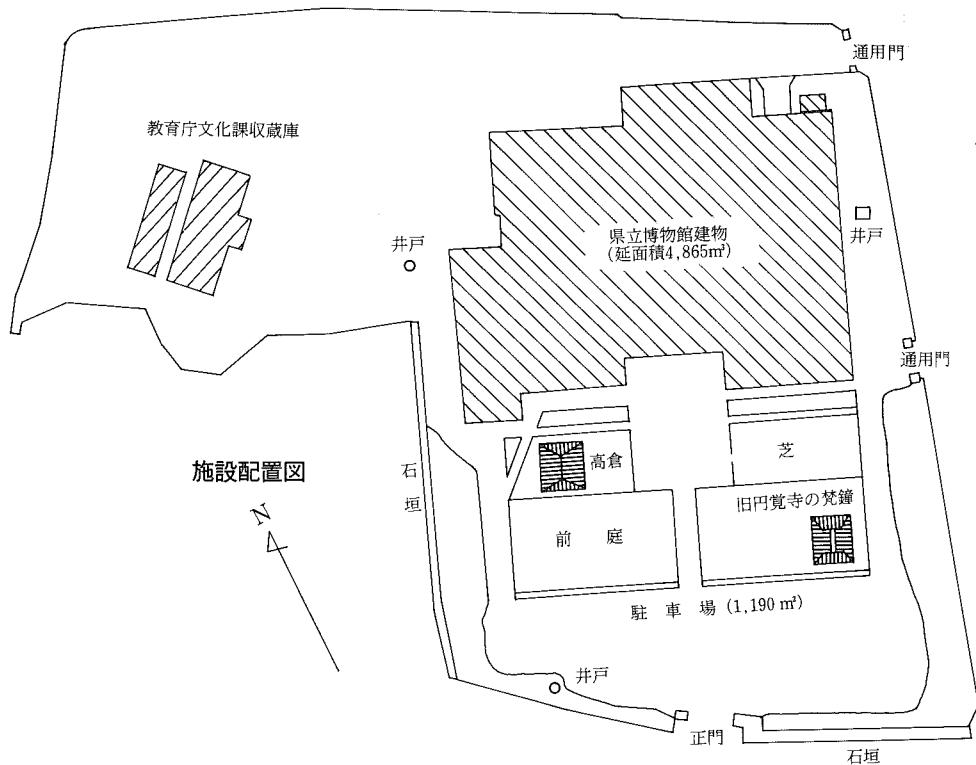
-
- | | |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和21年（1946） | 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。 |
| 昭和22年（1947） | 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。 |
| 昭和28年（1953） | 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。 |
| 昭和30年（1955） | 9月、琉球政府発足にともない首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称する。 |
| 昭和40年（1965） | この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入する。 |
| 昭和41年（1966） | 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。 |
| 昭和47年（1972） | 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。
5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。 |
| 昭和48年（1973） | 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。 |
| 昭和51年（1976） | 4月、創立30周年記念式典を行う。 |
| 昭和55年（1980） | 1月、特別展「日本の美——救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち——大恐龍展」開催。 |

- 昭和56年（1981） 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美——日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。
- 昭和57年（1982） 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展——熊本の歴史と文化」を開催する。
- 昭和58年（1983） 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美——風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。
- 昭和60年（1985） 11月、特別展「グスク——グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて——大嶺薰コレクション」を開催する。
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画——物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展——ある首里士族の400年」開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸——天野鉄夫コレクション」開催する。

歴代館長

〔東恩納博物館〕 大嶺 薫（昭和21・4～28・3）	〔首里博物館〕 豊平 良顯（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）
原田 貞吉（昭和28・3～30・5） 山里 永吉（昭和30・8～33・8）〔琉球政府立博物館〕 金城増太郎（昭和33・9～36・12） 大城 知善（昭和37・2～44・11） 外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕 大城徳次郎（昭和56・4～58・3） 大城 立裕（昭和58・4～61・3） 大城 宗清（昭和61・4～）	

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積	11,267m ²
●建物のべ面積	4,865m ²
1階及び講堂部分		2,893
2階		1,571
地階		401
●展示面積	1,590m ²
1階		632
2階		958
●ロビー面積	256m ²
●収蔵庫面積	677m ²
●駐車場面積	1,190m ²
●庭園面積	1,612m ²
●講堂	632m ²

客席数630席(1階240)

●空調機能力

ヒートポンプ式チーリングユニット
125,000kcal/h×2機
エアハンドリングユニット 7機
パッケージ型エアコン
56,000kcal/h×1機
28,000kcal/h×1機
20,000kcal/h×2機
8,400kcal/h×1機

●変電室

電灯	1Φ 3W	30KV A × 1機
電灯・動力	3Φ 4W	100KV A × 1機

動力 3Φ 3W 250KV A × 1機

●契約電力

..... 235kw

建物平面図および室名・面積

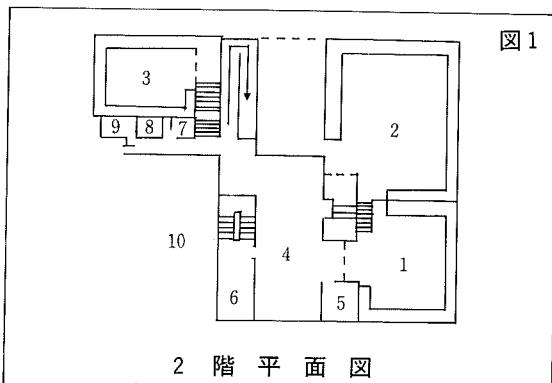


図1

2階平面図

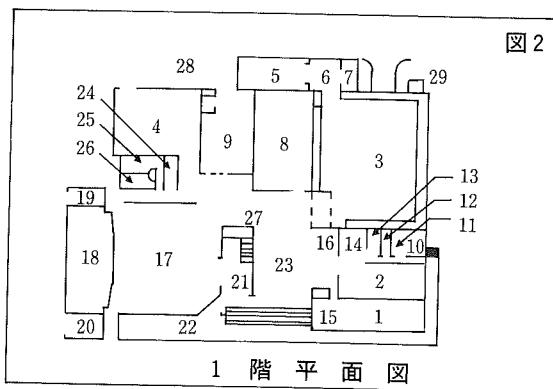


図2

1階平面図

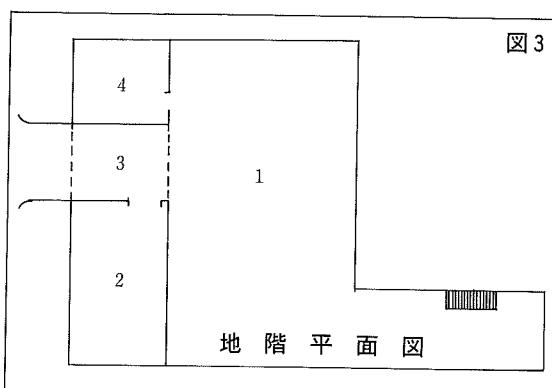


図3

地階平面図

<2階>

番号

番号	室名	面積
1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	ホール中2階	61

<1階>

番号

番号	室名	面積
1	事務室	115m ²
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	厨子甕収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	首里城正殿模型	18
17	講堂(客席)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	案内コーナー・友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5

<地下階>

番号

番号	室名	面積
1	収蔵庫	285m ²
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

3 予 算

昭和62年度博物館費（決算）

単位：円

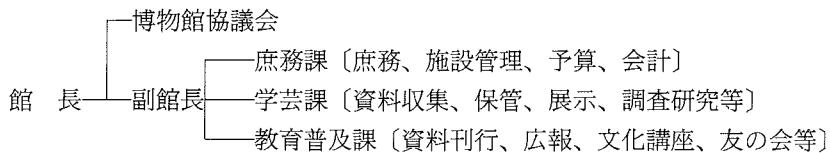
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	138,000	0	138,000
賃金	0	139,200	139,200
報償費	420,500	198,000	618,500
旅費	1,012,300	748,900	1,761,200
(普通旅費)	(1,012,300)	(684,680)	(1,696,980)
需要費	20,605,610	4,533,325	25,138,935
消耗品費	964,540	266,870	1,231,410
燃料費	38,841	0	38,841
(食料費)	(68,340)	(0)	(68,340)
印刷製本費	1,780,465	2,987,455	4,767,920
光熱水費	14,703,574	0	14,703,574
修繕費	3,049,850	1,279,000	4,328,850
役務費	1,802,682	2,381,950	4,184,632
通信運搬費	1,373,050	2,31,950	3,755,000
手数料	400,162	0	400,162
筆耕翻訳料	10,000	0	10,000
保険料	19,470	0	19,470
委託料	12,104,000	2,030,000	14,134,000
使用料及び賃借費	185,000	0	185,000
工事請負費	9,097,000	3,700,000	12,797,000
備品購入費	6,512,200	1,032,000	7,544,200
負担金補助及交付金	64,000	0	64,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	51,960,192	14,763,375	66,723,567

昭和62年度歳入状況（決算）

内訳 科目名	常設展	特別展
博物館使用料	11,902,960	2,452,000
建物使用料	29,624	0
小計	11,932,584	2,452,000
合計	14,384,584	

4 組 織

(1) 機 構



(2) 職員構成

63年4月1日現在

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	大城宗清	博物館業務の総理に関すること。
副 館 長	上江洲均	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課との調整に関するこ
庶務課長	大城正勝	庶務課の統轄。庶務、施設管理、予算、事業に関するこ
主任任	玉代勢理子	予算決算、会計事務に関するこ
主任任	新崎文子	歳入、庶務、人事、福利厚生に関するこ
技 師	平田典夫	施設設備の保守管理に関するこ
学芸課長	知念勇	学芸業務の統轄及び考古資料に関するこ
主 査	富島壮英	博物館資料の受入れ、整理分類及び歴史資料に関するこ
主任専門員	金武正紀	博物館資料の保存及び考古資料に関するこ
充指導主事	千木良芳範	総合調査調整、写真撮影、沖博協及び自然史に関するこ
学芸員補	与那嶺一子	博物館資料の受入れ、整理分類及び工芸に関するこ
教育普及課長	日越国昭	教育普及業務の統轄及び自然史に関するこ
充指導主事	高良松一	博物館学習、団体見学の調整及び美術に関するこ
充指導主事	津波古聰	教育普及、移動博物館、写真撮影及び工芸に関するこ
専 門 員	大城学	教育普及、文化講座、講演会及び民俗に関するこ

非常勤職員 (委嘱業務)	氏 名	担 当 業 務
教育普及補助員	宇良みどり	展示の解説。
リ	池原麻子	リ
受付	西平節子	受付、1階ロビー監視に関するこ
監視	東美智子	主として第1展示室の監視に関するこ
リ	照屋カツ	主として第2展示室の監視に関するこ
リ	西平勝子	主として第3展示室と企画展示室の監視に関するこ
リ	喜屋武トシ子	主として第4展示室の監視に関するこ
清掃員	渡慶次柴宝	清掃に関するこ

博物館友の会職員	氏 名	担 当 業 務
博物館友の会	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計

(3) 人事異動

63年4月1日現在

職 員	氏 名	摘 要
< 転 出 >		
庶務課長	村山勝信	沖縄県立教育センター庶務係長へ
主査	高良倉吉	退職(浦添市立図書館長へ)
主事	松本 隆	即ち沖縄県公園スポーツ振興協会主事へ
< 転 入 >		
充指導主事	高良松一	開邦高校教諭より(教頭)
庶務課長	大城正勝	島尻教育事務所庶務係長より
主査	富島壮英	県立図書館資料課長より
主任専門員	金武正紀	県文化課主任専門員より
専門員	大城学	県文化課専門員より

(4) 博物館協議会名簿

昭和63年4月1日現在

委 員 名	所 属 ・ 身 分	備 考
学識経験者	安次富長昭 琉大教育学部教授、美術工芸 野原朝秀 〃、地学 外間正幸 元県立博物館長、美術工芸 平敷令治 沖国大文学部教授、民俗学 嵩元政秀 興南中学教頭、考古学	(会長) (会長) (副会長) (会長) (会長) (会長) (会長) (会長)
学校教育	島袋文雄 安謝小学校長 宮良信賢 南風原高等学校長	
社会教育	高良房子 沖縄県婦人連合会理事 屋田直勝 沖縄県P.T.A連合会長 新城紀秀 沖縄県社会教育委員	

任期: 昭和63年3月11日～65年3月10日

II 入館者数

1 入館者数

月別入館者数

年月	内訳 個				内訳 人				内訳 体				内訳 総				開館 1日			
	大	人	高	大	生	小	中	生	大	人	高	大	生	小	中	生	計	日数	平均	
62年4月	(16)	3,745	172	458	4,375	(16)	(144)	842	1,107	1,064	(2)	(160)	4,587	1,279	(2)	(162)	7,388	25	302	
5月	(83)	3,181	423	175	3,779	(83)	(290)	708	533	1,103	(13)	(303)	(373)	1,278	(13)	(386)	6,123	25	260	
6月	(153)	2,869	45	295	3,209	(153)	(98)	334	(17)	(24)	(139)	(139)	(251)	956	(17)	(24)	(292)	4,661	23	215
7月	(76)	3,335	357	1,046	4,738	(18)	(94)	238	767	48	(101)	(101)	(174)	348	1,110	(21)	(195)	5,791	22	272
8月	(230)	5,596	856	2,133	8,585	(230)	(189)	(230)	689	1,112	(80)	(80)	(269)	1,124	1,094	(80)	(499)	11,109	25	464
9月	(275)	3,514	415	107	4,036	(275)	(161)	(161)	853	182	(161)	(161)	(436)	1,545	3,245	(13)	(436)	5,264	24	238
10月	(231)	4,100	157	366	4,623	(231)	(1,310)	(1,310)	1,252	1,797	(13)	(1,323)	(1,541)	1,268	289	(13)	(1,554)	11,109	25	464
11月	(173)	5,227	226	666	6,119	(173)	(2,013)	(2,013)	3,308	4,910	(68)	(2,081)	(2,186)	1,461	2,163	(13)	(1,554)	8,033	27	355
12月	(246)	4,333	244	370	4,947	(246)	(246)	(246)	4,232	1,084	(64)	(64)	(492)	3,724	3,534	(68)	(2,254)	16,834	25	764
63年1月	(104)	3,998	158	350	4,506	(104)	(69)	(69)	165	406	(166)	(166)	(173)	4,767	323	(64)	(556)	11,492	24	502
2月	(71)	4,533	304	387	5,224	(71)	(71)	(71)	920	544	(97)	(97)	(166)	(237)	1,224	(97)	(270)	8,281	23	370
3月	(56)	5,785	1,153	743	7,681	(56)	(56)	(56)	901	1,981	(563)	(563)	(308)	6,686	3,134	(311)	(619)	11,375	26	461
合計	(1,714)	50,216	4,510	7,096	(18)	(1,732)	(5,036)	(5,036)	(19)	(673)	(6,750)	(6,750)	(19)	(691)	(7,460)	() 内は無料扱い	109,657	292	376	
合	計	51,930	4,510	7,114	63,554	15,424	16,129	14,550	46,103	67,354	20,639	21,664	20,973	102,197	20,620	20,604	20,620	10,973	26	461

曜日別入館者数

内 曜 記 日	個　人				團　体				総　計				開館 日数	1　日　平　均				
	大　人	高大生	小中生	計	大　人	高大生	小中生	計	大　人	高大生	小中生	計		個人	団体	計		
月	(6) 173	3	17	(6) 193	0	0	0	(1,285) (1,285)	(1,291) 0	(1,291) 173	3	17	(1,291) 193	2	100	643	743	
火	(340) 6,999	696	1,094	(16) (356)	(612) 8,789	1,489	886	(193) 2,061	(805) 4,436	(952) 8,488	1,582	3,155	(209) 13,225	46	199	114	313	
水	(276) 7,241	617	801	8,659	1,534	3,374	2,945	(196) (17)	(1,069) (22)	(1,149) (646)	8,775	3,991	3,746	(196) (1,345)	49	182	182	364
木	(239) 8,530	849	856	10,235	1,067	4,324	2,784	8,175	9,597	5,173	3,640	18,410	50	210	176	386		
金	(235) 7,377	774	640	(2) (237)	(729) (729)	3,352	3,701	8,640	8,964	4,126	4,341	17,431	49	184	195	379		
土	(390) 8,897	795	1,017	10,709	1,939	1,948	1,497	5,384	10,836	2,743	2,514	16,093	49	227	122	349		
日	(228) 10,999	776	2,671	14,446	2,772	2,226	889	5,887	13,771	3,002	3,560	20,333	47	312	134	446		
計	(1,714) 50,216	4,510	7,096	61,822	10,388	16,110	13,877	40,375	60,604	20,620	20,973	102,197	—	—	—	—		
合計	51,930	4,510	7,114	63,554	15,424	16,129	14,550	46,103	67,354	20,639	21,664	109,657	292	218	158	376		

団体入館者数

内 記 年 月	県　内						県　外						國　外						総　計							
	大　人		高大生		小中生		計		大　人		高大生		小中生		計		大　人		高大生		小中生					
	團 体 數	人 員 數																								
62年4月	5	119	1	43	6	773	12	935	15	466	11	1,064	5	291	31	1,821	3	257	—	—	—	3	257	46	3,013	
5月	9	319	3	79	11	707	23	1,105	10	332	3	426	2	396	15	1,154	2	57	1	28	—	—	3	85	41	2,344
6月	4	161	—	—	7	765	11	926	4	169	3	303	1	2	8	474	1	4	—	—	2	48	3	52	22	1,452
7月	3	42	—	—	3	31	6	73	6	153	8	767	1	17	15	937	2	43	—	—	—	2	43	23	1,053	
8月	7	292	1	3	10	321	18	616	7	408	5	686	10	791	22	1,885	1	23	—	—	—	1	23	41	2,524	
9月	2	54	2	167	1	167	5	388	3	139	6	686	1	15	10	840	—	—	—	—	—	—	—	—	15	1,228
10月	7	199	1	54	17	1,510	25	1,763	3	72	7	1,198	4	260	14	1,530	3	90	—	—	1	27	4	117	43	3,410
11月	15	664	3	278	52	4,748	70	5,690	34	1,710	13	3,010	1	119	48	4,839	4	123	1	20	1	43	6	186	12	10,715
12月	17	605	2	154	11	1,073	30	1,832	15	562	27	4,078	3	11	45	4,651	2	62	—	—	—	2	62	77	6,545	
63年1月	8	221	2	165	6	399	16	785	11	528	—	—	2	7	13	535	1	20	—	—	—	1	20	30	1,340	
2月	5	205	—	—	5	518	10	723	34	1,368	4	920	1	1	39	2,289	1	20	—	—	1	25	2	45	51	3,057
3月	6	151	—	—	7	441	13	592	21	750	15	1,954	5	371	41	3,075	—	—	1	27	—	—	1	27	55	3,694
計	88	3,032	15	943	136	11,453	239	15,428	163	6,657	102	15,092	36	2,281	301	24,030	20	699	3	75	5	143	28	917	58	40,375

移動博物館入館者数（多良間村）

			小　人	大　人	合　計
6月6日（土）			256	220	476
7日（日）			100	98	198
合　計			356	318	674

2 県内外児童生徒学生団体見学者

小学校 (10,141名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	15	城北小学校	166名	10	15	諸見小学校	172名	11	19	稻田小学校	27名
17	松川小学校	177名	17	天仁屋小学校	42名	"	川崎小学校	83名			
18	天妃小学校	183名	"	渡嘉敷小学校	45名	20	松田小学校	24名			
28	南風原小学校	242名	22	宮森小学校	114名	"	羽地小学校	90名			
5	1	与那原小学校	135名	23	武蔵野東小学校(東京都)	84名	"	佐敷小学校	86名		
"	与那原東小学校	138名	28	亀徳小学校	37名	"	大名小学校	109名			
14	金城小学校(3年)	89名	29	伊平屋小学校	24名	"	安慶田小学校	174名			
"	(6年)	89名	10	有銘小学校	26名	21	辻土名小学校	35名			
20	福嶺小学校	26名	30	西小学校	44名	"	泊小学校	21名			
21	西城小学校	48名	11	宇栄原小学校	267名	25	高江洲小学校	79名			
"	砂川小学校	42名	"	津嘉山小学校	163名	"	名護小学校	162名			
22	下地小学校	26名	6	漢那小学校	37名	"	屋嘉地小学校	23名			
26	西辺小学校	43名	"	大岳小学校	50名	26	具志川小学校	77名			
"	上野小学校	57名	"	百名小学校	56名	"	大北小学校	105名			
28	恩納小学校	44名	10	牧港小学校	145名	12	2	川崎小学校	82名		
6	2	平良第一小学校	223名	"	山内小学校	118名	"	赤道小学校	153名		
4	ズケラン小学校	50名	11	中川小学校	23名	4	金武小学校	148名			
9	佐良浜小学校	97名	"	上本部小学校	57名	"	大宮小学校	212名			
"	城辺小学校	46名	"	城前小学校	109名	"	嘉数小学校	161名			
11	南小学校	157名	12	和光小学校(東京都)	128名	"	城南小学校	136名			
6	18	仲里小学校	28名	"	渡慶次小学校	104名	1	14	城西小学校(3年)	150名	
26	久松小学校	33名	"	屋部小学校	68名	19	"	5-2	40名		
27	登野城小学校	222名	"	東江小学校	169名	"	"	5-4	42名		
7	25	東小学校(三重県)	31名	13	清水小学校	56名	22	"	5-3	42名	
8	2	若狭小学校	67名	"	嘉芸小学校	40名	"	"	5-5	40名	
9	25	新川小学校	177名	"	伊是名小学校	22名	27	"	5-1	41名	
10	6	与那原東小学校	135名	14	奥間小学校	26名	2	10	崎本部小学校	32名	
8	大謝名小学校	193名	11	普天間小学校	161名	13	石嶺小学校	167名			
"	西原東小学校	110名	"	嘉手納小学校	175名	26	久茂地小学校	86名			
9	城西小学校	228名	"	城前小学校	143名	"	高良小学校	213名			
13	西原小学校	171名	"	本部小学校	143名	27	中原小学校	43名			
14	安富祖小学校	49名	18	久辺小学校	57名	3	2	豊見城小学校	205名		
"	志真志小学校	197名	"	北美小学校	97名	8	与儀小学校	99名			
"	真喜屋小学校	33名	"	喜名小学校	101名	3	16	城南小学校	99名		

中学校 (2,809名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	15	三橋中学校(福岡県)	277名	11	11	南風原中学校	210名	1	29	西原中学校	47名
5	16	金久中学校(鹿児島県)	372名	"	津堅中学校	52名	3	9	桜美林中学校(東京都)	92名	
23	住用中学校(")	44名	12	羽地中学校	158名	19	清教学園中学校(大阪府)	85名			
10	4	三又中学校(福岡県)	101名	13	具志川東中学校	221名	23	成城中学校(東京都)	181名		
21	国士館中学校(東京都)	58名	25	城ヶ丘中学校(鹿児島県)	40名	29	高嶺中学校	24名			
11	5	知念中学校	117名	27	東風平中学校	250名					
6	糸満中学校	314名	12	2	本部中学校	166名					

高等学校 (13,666名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	1	山陽女子高校(広島県)	48名	7	10	2班(")	182名	9	29	首里高校	34名
17	須磨ノ浦女子高校A班(兵庫県)	307名	14	県立水産高校(熊本県)	20名	30	中央大学高校(東京都)	78名			
18	" B班(")	259名	8	27	柳学園高校(兵庫県)	50名	10	4	久留米学園高校(福岡県)	232名	
5	2	福井高等女学院(福井県)	22名	"	甲陵高校(山梨県)	42名	7	大島工業高校(鹿児島県)	163名		
7	金沢二水高校A班(石川県)	238名	9	12	九州電機学園高校(福岡県)	225名	16	東京高校(東京都)	349名		
10	" B班(")	187名	16	帝京八王子高校(東京都)	268名	23	寺井高校(石川県)	364名			
7	9	作陽高校1班(岡山県)	200名	27	泊高校	151名	11	1	若松高校(福岡県)	23名	

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
11	7	岡山女子高校(岡山県)	216名	12	11	成安女子高校(京都府)	46名	12	24	〃 2班(〃)	297名
12	富士学園高校(山梨県)	203名	〃	11	精華女子高校(大阪府)	265名	〃	常葉学園高校1班(静岡県)	55名		
〃	菊地女子高校(熊本県)	62名	〃	明徳商業高校1班(京都府)	146名	〃	〃 2班(〃)	21名			
18	進徳女子高校(広島県)	261名	12	手塚山学院泉ヶ丘高校(大阪府)	36名	24	常葉学園高校3班(静岡県)	32名			
〃	昭和薬大附属高校	159名	〃	〃	46名	1	19	南風原高校	106名		
19	八王子高校(東京都)	353名	〃	明徳商業高校2班(京都府)	141名	2	20	星野女子高校(埼玉県)	426名		
〃	明淨学院高校(大阪府)	273名	13	〃 3班(〃)	189名	21	〃 (〃)	431名			
20	八王子高校(東京都)	378名	15	大阪女子学園高校(大阪府)	44名	3	1	大阪商大附属高校1班(大阪府)	216名		
〃	クライストザギングインターナショナルスクール	21名	〃	千代田学園高校(東京都)	42名	2	〃 2班	177名			
〃	明淨学院高校(大阪府)	315名	〃	沖縄水産高校	108名	10	豊田七谷高校A班(愛知県)	178名			
25	東京育生高校(東京都)	390名	16	明徳商業高校3班(京都府)	136名	11	〃 B班(〃)	171名			
〃	読谷高校	81名	〃	清風高校2班(大阪府)	299名	13	同志社国際高校(京都府)	50名			
28	金沢松陵工業高校(石川県)	241名	17	明徳商業高校4班(京都府)	185名	15	近畿大附属高校(大阪府)	30名			
29	東京育生高校(東京都)	334名	〃	清風高校1班(大阪府)	276名	16	〃 女子部(〃)	43名			
12	内灘高校(石川県)	279名	18	〃 3班(〃)	333名	〃	駒沢大学高校(東京都)	231名			
4	八戸工大第二高校(青森県)	90名	19	〃 4班(〃)	263名	30	足立高校1班(東京都)	251			
6	北陽高校(大阪府)1班	166名	22	ハワイハイスクール	32名	31	〃 2班(〃)	269名			
10	〃 2班	213名	〃	埼工大深谷高校(埼玉県)	193名						
〃	〃 3班	139名	23	京都女子高校1班(京都府)	286名						

大学及び専門学校 (2,194名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	2	川崎医療短期大学(岡山県)	33名	6	25	県立芸術大学	17名	11	20	国際ツーリズム専門学校	49名
8	高田短期大学(三重県)	150名	27	近畿情報処理専門学校2班(大阪府)	46名	25	彦根高等技艺専門学校(滋賀県)	87名			
9	〃 (〃)	136名	7	14	福岡YMCA英語専門学校(福岡県)	29名	12	20	沖縄大学考古学	52名	
23	東葉紫短期大学1班(福岡県)	50名	15	千代田学園(東京都)	145名	23	広島電子専門学校(広島県)	64名			
〃	〃 2班(〃)	47名	25	奈良家庭学園専門学校(奈良県)	36名	1	7	琉球大学考古学	61名		
〃	〃 3班(〃)	48名	8	26	松山東雲短期大学(愛媛県)	21名	2	4	長野県農業大学校(長野県)	44名	
24	文化服装学院テキスタイル(東京都)	25名	9	9	法政大学、津田塾大学(東京都)	26名	27	佐賀女子短期大学(佐賀県)	54名		
25	沖縄キリスト教短期大学	46名	〃	宇都宮デザイン電気専門学校(栃木県)	65名	3	24	鶴見大学(神奈川県)	49名		
5	16	琉球大学	37名	25	皇學館大学(三重県)	48名	25	山梨英和短期大学(山梨県)	52名		
20	ビジネス外語学院附属日本語学校	32名	10	14	山口女子大学(山口県)	23名	27	山陽女子短期大学(広島県)	118名		
30	中央服装専門学校	24名	〃	20	岡山情報ビジネス学院(岡山県)	93名	31	小堀学院(埼玉県)	30名		
6	20	鳥栖歯科専門学校(佐賀県)	83名	24	沖縄キリスト教短期大学	58名					
25	近畿情報処理専門学校(大阪府)	189名									

特殊学校その他 (1,110名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
5	19	鏡が丘養護学校	11名	8	18	長田保育園	16名	12	13	ボイスカウト那覇10団 小人15名	
27	那覇養護学校	10名	19	屋部小学校PTA	45名	15	那覇養護学校	4名			
6	16	中央児童相談所	22名	22	鏡原中学校特殊学級	4名	22	安慶名小学校PTA 小人21名			
19	森川養護学校訪問学級	19名	27	豈見城村子ども会育成会	18名	〃	森田塾	55名			
8	6	城西小学校PTA	30名	10	18	阿嘉小中学校PTA 小人12名	1	17	伊江小PTA 20名		
8	小禄小学校PTA	26名	11	8	ガールスカウト41団	26名	30	さくら保育園	20名		
9	座安小学校家庭教育学級	小人36名	19	鏡原中学校特殊学級	5名	3	4	浦添幼稚園	187名		
〃	島尻養護学校青年学級	20名	〃	名護中学校家庭教育学級会	26名	10	リズミー学園	19名			
14	玉城小学校家庭教育学級	小人49名	25	育英義塾幼稚園	68名	11	与勝第二中学校特殊学級	4名			
〃	川平教育となり組	小人15名	29	羽地小学校PTA 小人87名		15	さつき幼稚園	123名			
15	神原小学校PTA	19名	12	4	城南小学校PTA 小人34名						
16	松田小学校PTA	27名	13	島袋隣り組	小人17名						

III 展示活動

1 常設展

展示室概観

常設展は昭和61年に大幅な展示替えが行われたため今年度は、大幅な展示替えはなかった。しかしながら、昭和62年度は沖縄海邦国体が開催されたため、当館所蔵の一級資料を展示するよう心がけた。

展示室は1階に「歴史展示室」(考古・歴史)と「自然史展示室」がある。2階はロビーに常設展を兼ねた「企画展示室」と「美術工芸展示室」、それに「民俗展示室」がある。各展示室を結ぶ基本的な観客導線の順序は上に述べた順となっている。

歴史展示室(第1室)は、琉球列島の形成と旧石器時代、そして九州縄文文化の南下で開始され次第に独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代を展示した。12世紀からは、各地に支配者である按司が登場し、グスク時代が開始される。15世紀初期には沖縄は統一され、琉球王国が誕生する。琉球王国の対外貿易・外交の状況、近世史の概要、近世の文化、さらに幕末、琉球処分、明治・大正・昭和の様相、沖縄戦、戦後といった通史的な流れが展示されている。

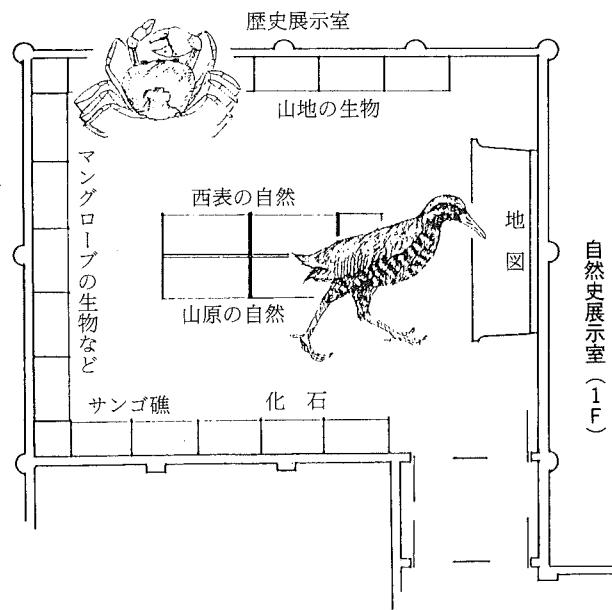
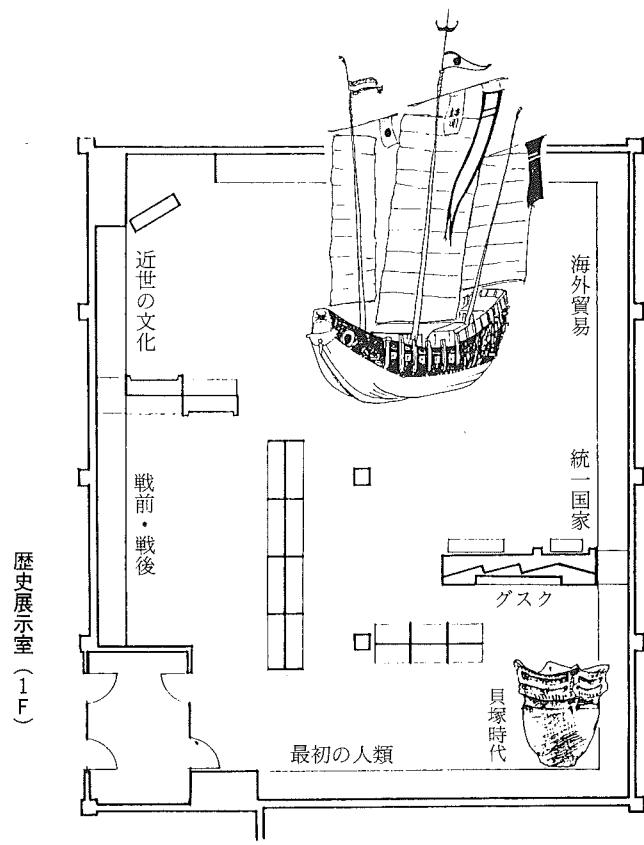
自然史展示室(第2室)は、琉球列島の成立および亜熱帯特有の自然について展示してある。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれる程多種多様な動植物を、それらがすむ環境ごとに整理し紹介している。また、豊かな自然をとどめる山原(沖縄島本部)と西表島の自然についても、特設コーナーを設けて展示してある。

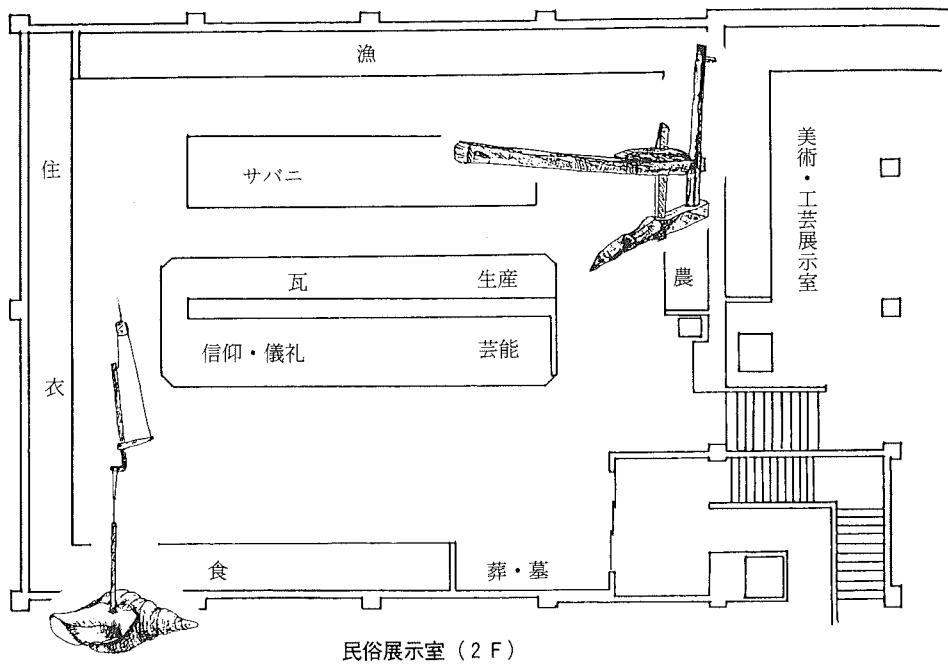
企画展示室(2階ロビー)は企画展・特別展の時に使用されるが、普段は当館の所蔵する「大嶺コレクション」を展示している。

美術工芸室(第3室)は沖縄の代表的な文化資料である、書画・染織・漆器・陶器などが展示されている。亜熱帯の風土と海外との文化交流を背景に制作された美術工芸品は、沖縄の個性的な世界を表現している。

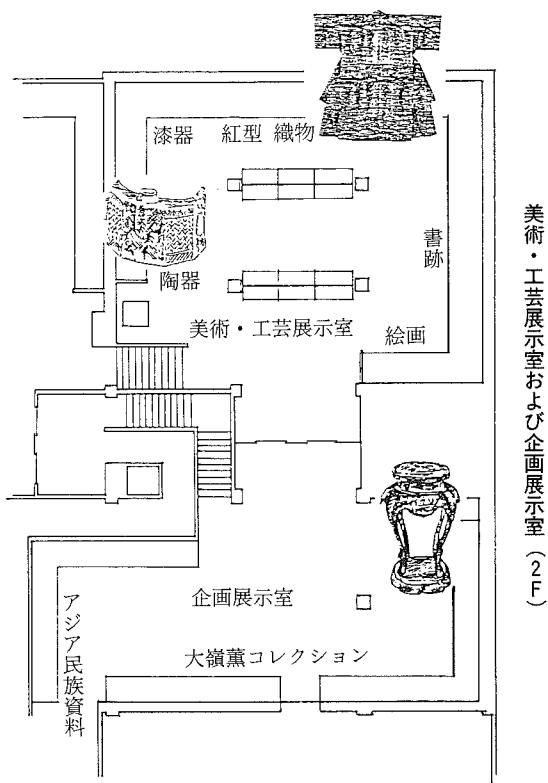
民俗展示室(第4室)、琉球列島の民俗資料を農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などの部門に分類整理して展示されている。これらの生活用品を通して、沖縄の生活とその広がりを確めることができる。

なお、1階ロビーには、首里城正殿前に掲げられていた「万国津梁の鐘」や首里城正殿模型をはじめ扁額などの展示がなされている。





民俗展示室（2F）



美術・工芸展示室および企画展示室（2F）

2 特 別 展

スポーツ芸術「沖縄近代の絵画」——物故作家——展

会期：昭和62年10月20日（火）～11月22日（日） 会場：企画展示室（2階ロビー）

〔趣旨〕

62年度開催された国体のスポーツ芸術の一環として当博物館では、特別展「沖縄近代の絵画」——物故作家——を催した。

明治の西洋文化の流入に伴い油絵技法が持ち込まれ、絵画の流れが大きく転換する。沖縄洋画壇でまず、最初に大きな影響力をもったのは明治末から大正・昭和にかけて教鞭を取った教師達であり、人材育成に務めるとともに、活発な美術運動を展開している。その動きは今次大戦で一時中断するが、終戦の年に再開し、現在活躍する洋画家の多くを生み出すこととなる。

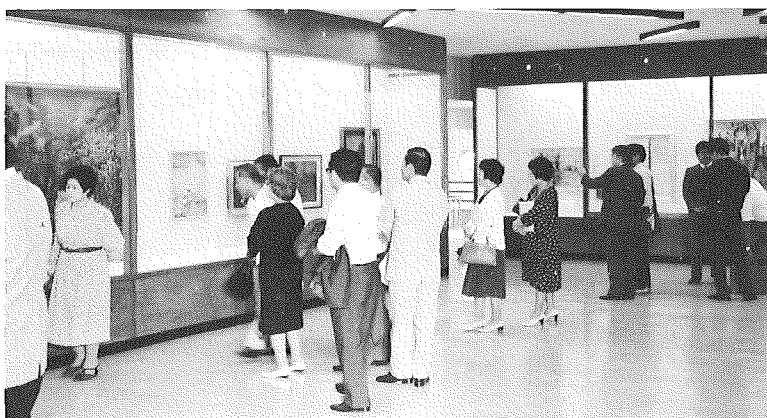
今回の展示では、近代に目を向け、特に現在の沖縄洋画壇の基礎を築いた作家、及び作品を通して、沖縄洋画壇の流れを県内外の皆様に紹介した。

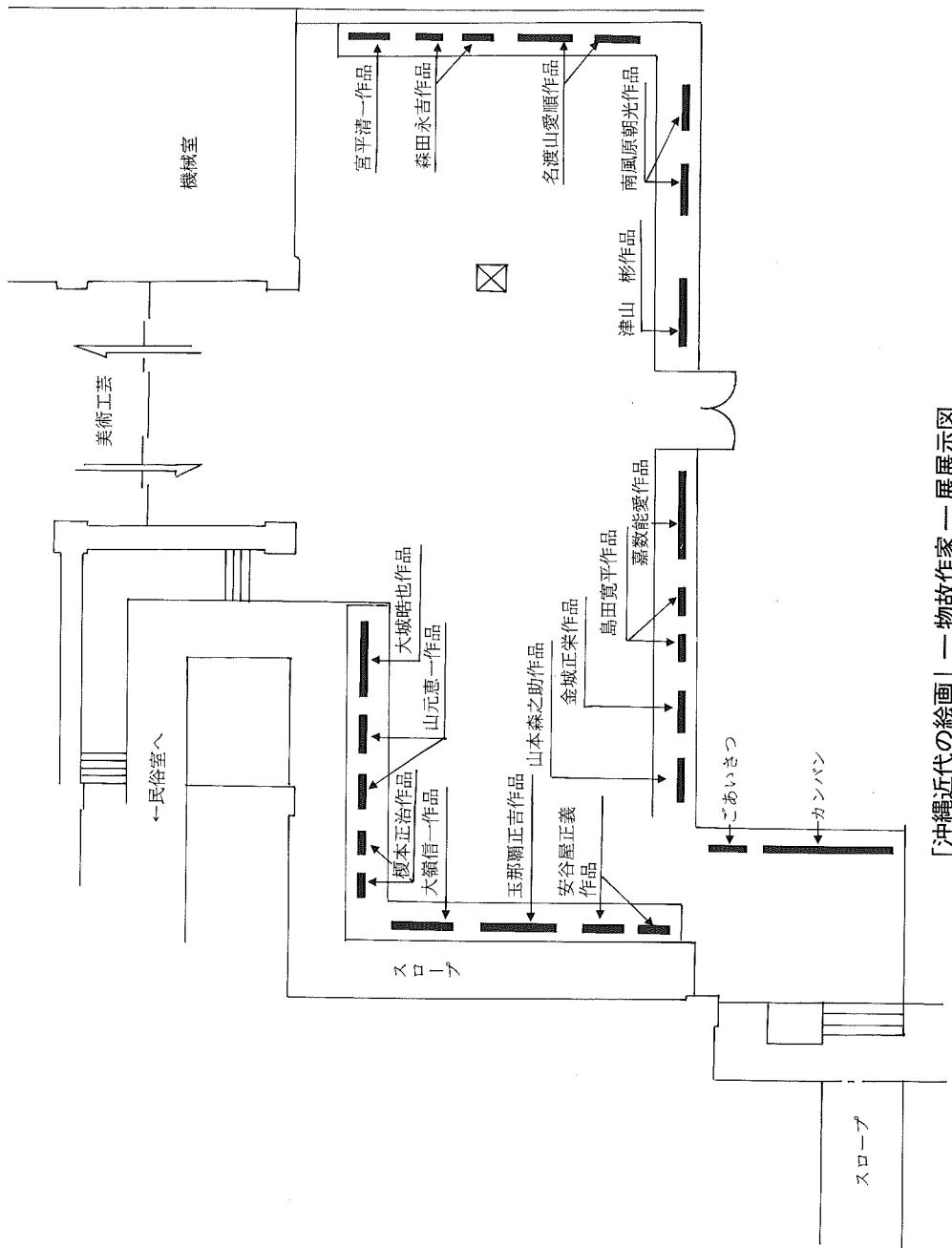
〔展示内容〕

展示スペースに制約があるため、まず洋画作家に限定し、明治以降に生まれ、大正・昭和にかけて活躍し、現在に沖縄洋画壇の基礎を築いた人物ということで作家を選定し、展示作品を決定した。洋画家で最初に沖縄に教師として赴任した長崎出身の山本森之助の「首里の夕月」他、15作家22点が展示された。

〔展示品目録〕

山本森之助「首里の夕月」、金城正栄作「廃船」、島田寛平作「浜」「秋晴れ」、嘉数能愛作「海底」、津山彬作「門」、南風原朝光作「野菜とくだもの」「魚と静物」、名渡山愛順作「裸婦」「沖縄の女」、森田永吉作「遊泳」「海浜」、宮平清一作「樹間」、大城皓也作「海の祭典」、山元恵一作「岬」「島のうた」、榎本正治作「コトを持ったはにわ」「少女」、大嶺信一作「おんな」、玉那覇正吉作「灯のともるころ」、安谷屋正義作「塔」「港」





「沖縄近代の絵画」—物故作家—展展示図

3 企画展

昨年度に開催した企画展は「昭和61年度新収蔵品展」「田名家所蔵品展」「現代沖縄の陶芸展」の3件であった。

昭和61年度新収蔵品展

会期：昭和62年5月13日（水）～5月24日（日）

会場：企画展示室（2階ロビー）

〔開催趣旨〕前年度に寄贈・購入・収集あるいは移管・返還などで得た新資料を一般公開する目的で開催する恒例の企画展である。新資料を紹介し広く活用してもらうことはもとより、資料を提供していただいた方々に対する感謝の意を込めて毎年開催している。

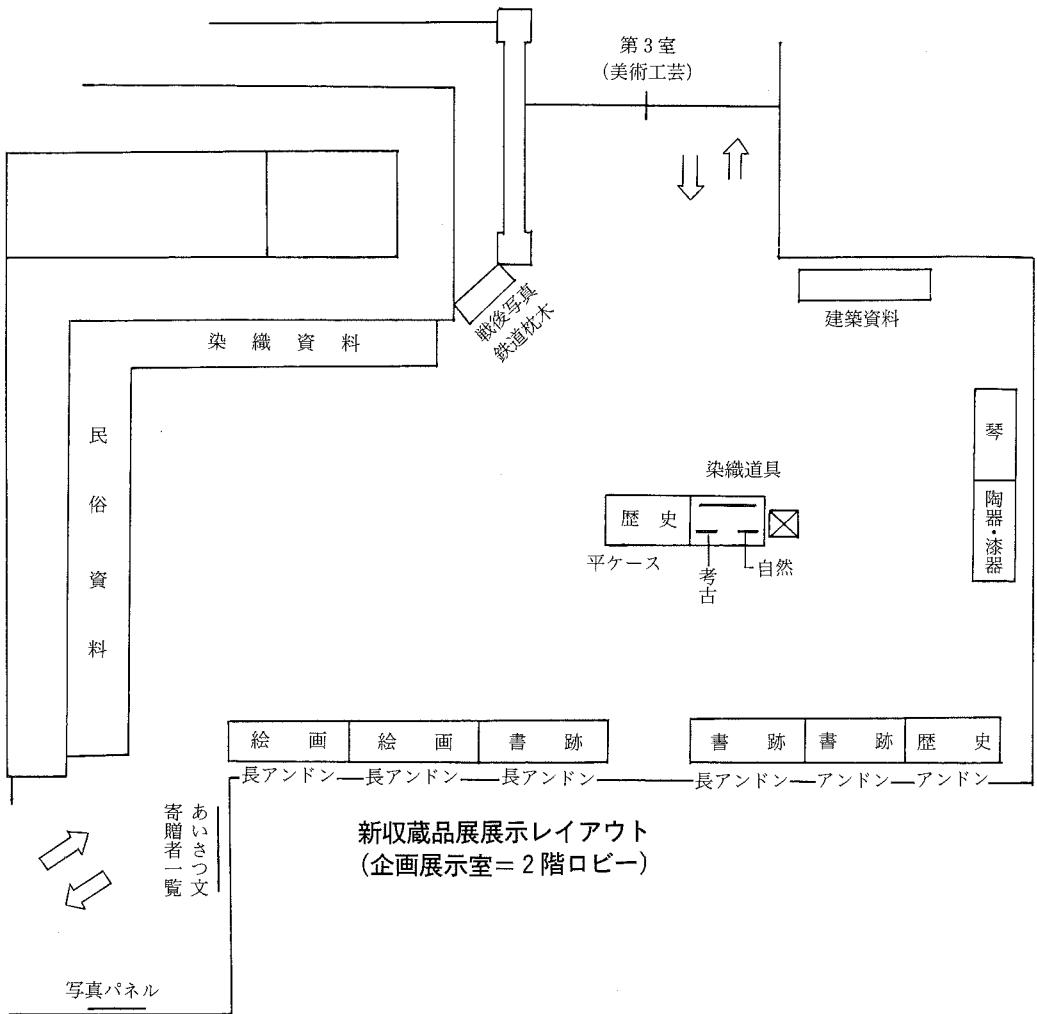
〔展示内容〕展示スペースに限りがあるため、収蔵されたすべての資料を展示することはできなかった。主な展示物として、絵画では孫億の「花鳥図」「松鶴図」、書跡では林鴻年・李鼎元・于光甲・鄭徳潤などの書、染織では桐板白地格子に絣上衣、芭蕉白地総絣着物など、歴史資料では「中山詩文集」「事略（五事略）」など、考古資料では土器フタ付壺（タイ産）、民俗資料では石厨子・ウミカガソなど、自然資料ではノグチゲラ剥製などを展示。なお、展示レイアウトは次ページの図を参照。

〔展示目録〕展示会に際してパンフレット「昭和61年度新収蔵品展」を刊行し、そのなかで主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は『沖縄県立博物館年報』No.20の28～29ページにも掲載されている。

- 1) 購入の部：孫億「花鳥図」・李鼎元書ほか10点
- 2) 寄贈の部：芭蕉白地総絣着物・存星龍小箱・石厨子ほか1870点
- 3) 収集の部：おもろ主取石棺銘書・墓誌ほか6点

〔感謝状の贈呈〕木綿黑白ヤシラミ花織上衣ほか65点の染織資料を寄贈した池宮正治氏に対し感謝状を贈呈した。

〔付記〕なお、天野ハル氏より寄贈された1588点におよぶ陶器資料（天野鉄夫コレクション）については、新収蔵品展とは別途に企画展「現代沖縄の陶芸——天野鉄夫コレクション」を開催し、新資料を紹介した。



田名家所蔵品展——ある首里士族の400年

会期：昭和62年12月1日（火）～12月13日（日）

会場：企画展示室（2階ロビー）

〔開催主旨〕田名家から当館に寄託されている「田名家文書」（国指定重要文化財）を全品展示し、併せて麻姓田名家に伝わる遺品を一堂に会することによって、麻姓田名家の歴史および沖縄の歴史に対する理解を深めるために企画・実施した。

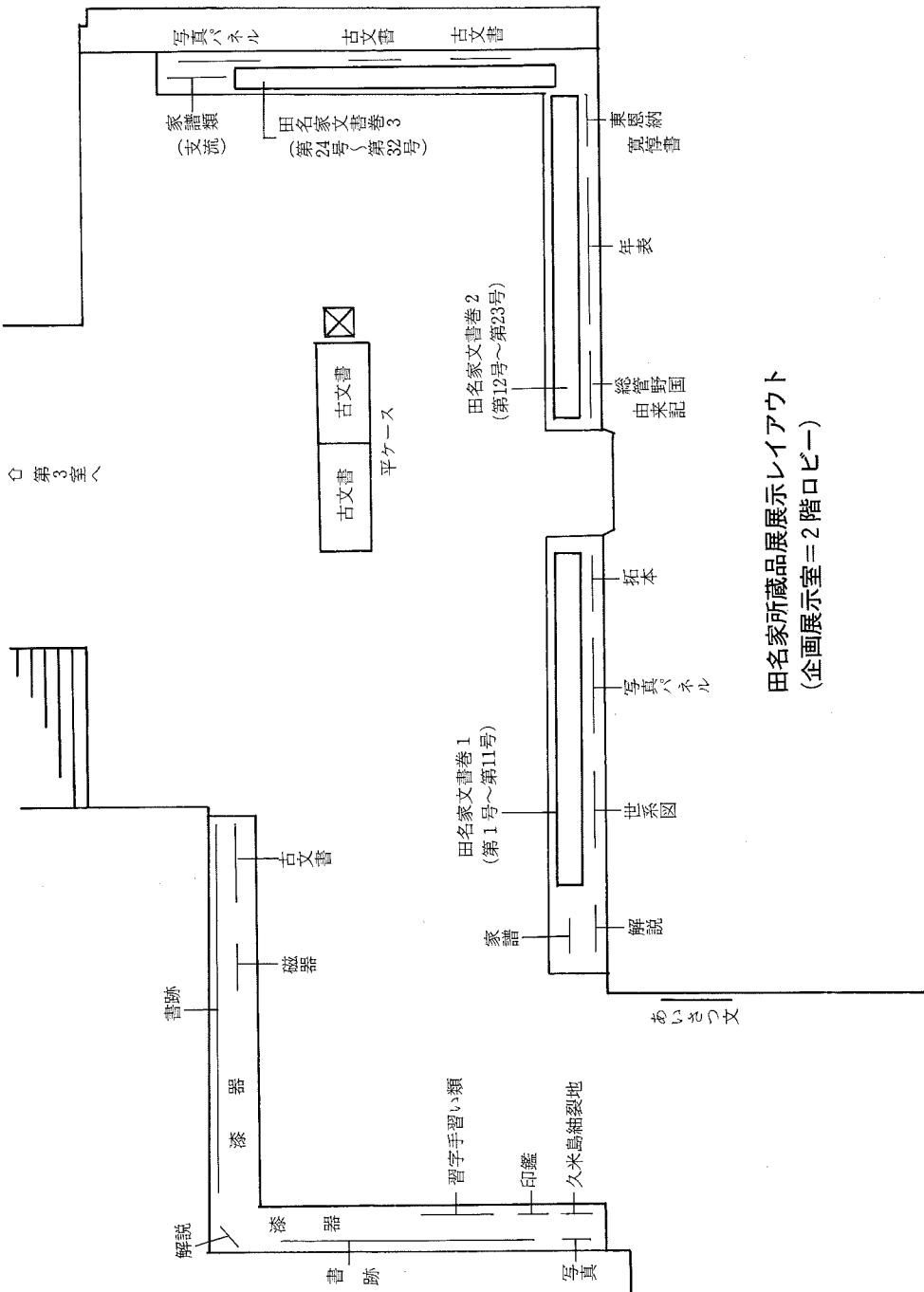
〔開催形式〕当館が主催し、麻姓田名家の宗家田名弘氏が協賛、沖縄タイムス社が後援した。田名弘氏はこの企画展を物心両面にわたって支援し、沖縄タイムス社は展示会の広報の面で強力にバックアップしてくれた。なお、展示会の推進にあたって「田名家所蔵品展検討委員会」をおき、田名家側の委員4名、当館職員2名で構成した。

〔展示内容〕展示の最大の目玉である「田名家文書」（辞令書）32点をすべて展示し、これに加えて書軸・漆器・古文書などを配置した。また、関係写真のパネルや拓本などを掲げた。これにより田名家の400年の歴史と当時の時代背景が概観できるようにした。なお、展示レイアウトは次ページの図をご参照いただきたい。

〔展示目録〕図録として『企画展・田名家所蔵品展——ある首里士族の400年』（52ページ）を作成し、そのなかで全展示品を紹介・解説するとともに、巻末に「田名家所蔵品目録」を作成し掲載した。

〔広報記事〕沖縄タイムス紙上に次の記事が掲載された。「田名家文書の一般公開へ」（昭和62年10月3日）、「沖縄の歴史のパノラマ——田名家所蔵品展」1) 麻姓田名家のあゆみ（田名真之）2) 3) 田名家文書上・下（高良倉吉）4) 田名雪莊とその書（上江洲敏夫）5) 漆工芸（津波古聰）（以上11月23日～27日）、「田名家所蔵品展、あすから13日まで」（11月30日）、「田名家所蔵品展、県立博物館で開幕」（12月1日夕刊）、「田名家所蔵品展、重要文化財一堂に」（12月3日）、「ある首里士族の400年——田名家所蔵品展を観る」（池宮正治・西里喜行）（12月7日～8日）。なおその他に県内のテレビ・ラジオでも報道された。

〔付記〕この企画展期間中、第157回博物館文化講座「田名家所蔵品展展示解説会」（講師・田名真之）も開催された。



田名家所蔵品展展示レイアウト
(企画展室=2階ロビー)

企画展「現代沖縄の陶芸」——天野鉄夫コレクション

会期：昭和62年12月18日～昭和63年1月17日

会場：博物館2階企画展示室

趣旨：故天野鉄夫氏（元沖縄県文化財保護審議委員）が長年にわたり収集した沖縄陶器の資料を沖縄陶芸界の発展に少しでも寄与してもらいたいという故天野氏の遺志や御遺族の方々の御厚意により昭和61年2月、1,588点のコレクションが当館に寄贈された。

寄贈された資料には人間国宝金城次郎氏の作品をはじめとして、故小橋川永昌氏、故新垣栄三郎氏ら沖縄を代表する陶工の作品が数多く含まれており、現代における沖縄陶器の脈絡や動向を知る上で貴重なコレクションである。

天野鉄夫コレクションを通して、沖縄の陶器のすばらしさを広く一般に紹介するとともに故天野鉄夫氏の顕彰をかねてこの展示会を催した。

展示内容：資料は作者別に代表的なものを展示した。作者は沖縄の陶工を中心に、沖縄に関係した県外の陶工の作品をつとめて展示了。

展示品目：『現代沖縄の陶芸一天野鉄夫コレクション』（図録）を発行し、展示品の写真紹介やおもな資料の目録を掲載したので参照して下さい。

金城次郎作—線彫魚文大皿、線彫海老文皿、線彫魚文皿、線彫海老文鉢、線彫草文皿、線彫唐草文皿、窯変六角鉢、線彫魚文壺、線彫魚海老文角瓶、線彫魚文花瓶、線彫海老魚文花瓶、筒描魚文徳利、緑釉線彫魚文徳利、指搔花文壺、緑釉指搔壺、緑釉指搔文花瓶、象嵌海老文壺、指搔耳付大壺、黒釉筒描魚文壺、線彫松枝文壺、線彫魚文壺、指搔角瓶、白搔落唐草文小壺、線彫唐草文小花瓶、線彫花文一輪差、線彫四葉手付土瓶、線彫海老文急須、三彩手付土瓶・湯飲み、緑釉流茶碗、水滴、練上手茶碗、線彫海老文抱瓶、線彫魚文抱瓶、対瓶、緑釉徳利、飛鉢渡名喜瓶、からから、呉須飴垣文碗、蓋物

小橋川源慶—貼付獅子文大壺、三彩大壺、三彩大丁字風炉、緑釉大壺、三彩搔落花瓶、線彫三彩太鼓花瓶、緑釉貼付花瓶、緑釉縞花生、鉄釉貼付双耳花瓶、三彩横縞渡名喜瓶、彫絵渡名喜瓶、竹筒型花生、緑釉縞大抱瓶、二彩丁字風炉、飴釉あんびん、三彩亀甲文あんびん

石川 喜進—獅子（博物館型）、獅子、荒焼壺

島袋 常戸—緑釉盛付龍抱瓶、象嵌印花文抱瓶、彫絵三彩角瓶、筒描角瓶、窯変角瓶

新垣栄三郎—赤絵面取壺、赤絵あんびん、白釉筒型花生

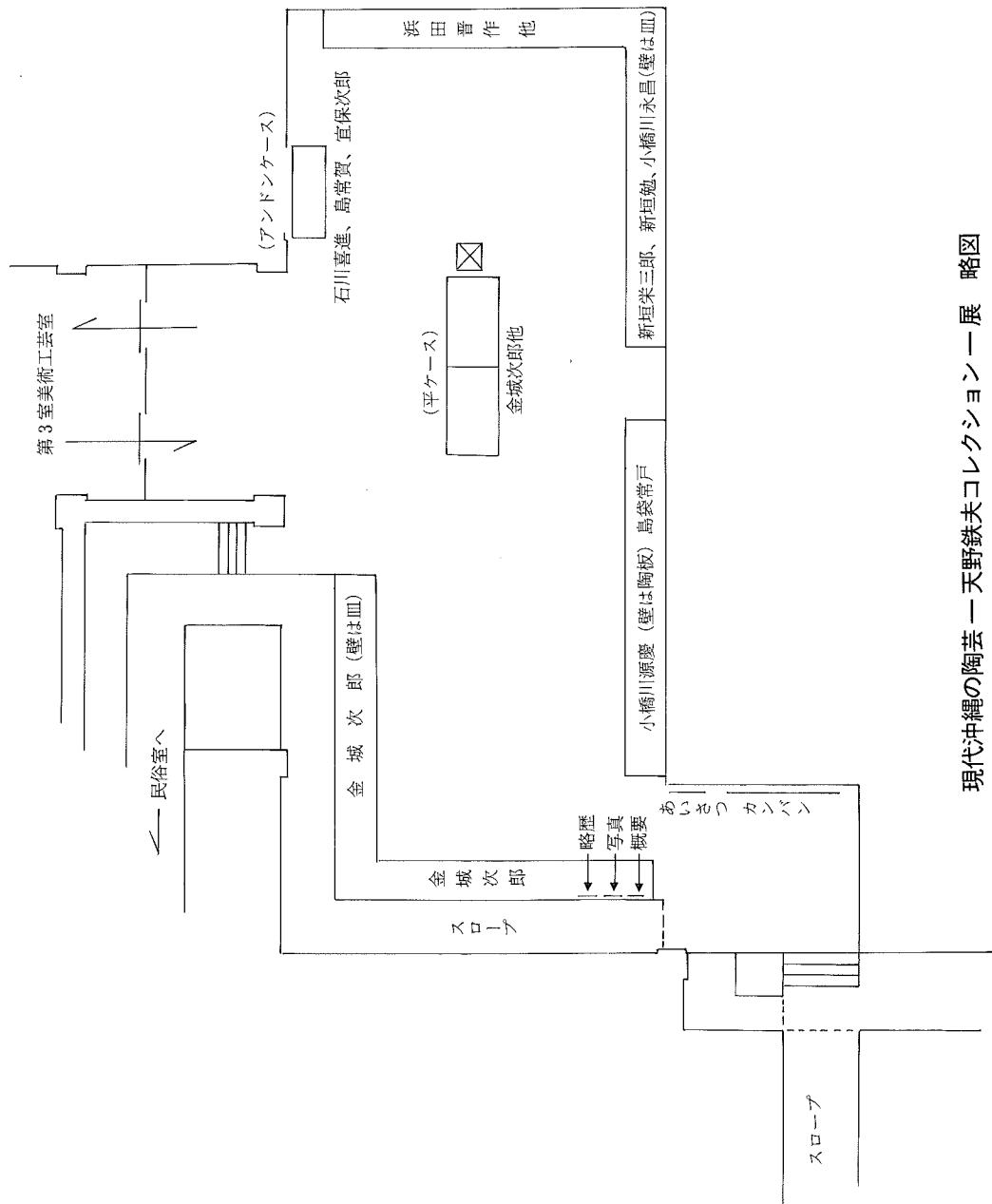
新垣 勉—赤絵海老文壺、緑釉窓赤絵大皿

宜保 次郎—玉取獅子、獅子

島袋 常雄—盛付龍文焼締、窯変焼締花生、大タワカシー
小橋川永昌—なまこ釉手付土瓶、白釉打双耳付壺、窯変首長壺
島 常賀—獅子
与那覇朝大—飛鉋三耳壺
金城 敏男—筒描面取壺
島袋 常秀—象嵌草葉丸文壺
島袋 常恵—綠釉双耳香炉
宮城 智—線彫魚文油壺
下地 正宏—白釉花瓶
佐久間藤太郎—磁釉梅絵茶碗
高江洲康勇—赤絵小壺
浜田 晋作—黒釉流壺
作者不詳——灰釉櫛目波状文大皿
作者不詳——陰刻唐草文水甕



現代沖縄の陶芸 一天野鉄夫コレクション一展 略図



4 移動博物館

第11回移動博物館

会期：昭和62年6月6日（土）～7日（日）

会場：多良間村立中央公民館

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・多良間村・多良間村教育委員会

〔趣旨〕当館の利用の便に恵まれない離島や遠隔地において、通常の博物館活動を公開し、参加することによって、文化の広域的普及をはかることを目的とする。第11回目は宮古島と石垣島のほぼ中間に位置する多良間村で開催した。

〔内容〕資料の展示とビデオ放映を展示会場で行い、講演会は小学校体育館で催した。展示は自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の各分野別とし、それに戦前の写真パネルを加えた。（展示品目録参照）

（ビデオ放映）「琉球の風物」、「琉球の工芸」、「東洋のガラパゴス」「トンボの愛はハート型」、「酒だ忍法コノハチョウ」

（講演会）日時：昭和62年6月6日（土）午後2時～5時

場所：多良間村立多良間小学校体育館

演題及講師 ○『多良間村を襲った明和の大津波』

加藤祐三（琉球大学海洋学科助教授）

○『多良間村からみた沖縄の歴史』

高良倉吉（沖縄県立博物館主査）

〔入場者数〕

展示会	356（小人）	318（大人）	計	674
-----	---------	---------	---	-----

講演会	145
-----	-----

合計 819

〔予算〕

国庫補助を得て総額3,116,175円で、内訳は報償費（10,500円）、旅費（651,800円）、消耗品費（66,580円）、印刷製本費（175,095円）、通信運搬費（2,212,200円）である。

展示品目録

〈古 生 物〉

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、恐竜の卵の化石、世界最古の化石“コレニア”

〈沖縄の生物〉

写真パネル（沖縄の天然記念物〔動物〕）

ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネ、ケナガネズミ、ノグチゲラ、他3点

動物剝製

コガモ、ヤンバルクイナ、アカショウビン、ヤマシギ、ホウロクシギ、アオバト、キンクロハジロ、イノシシ

昆虫標本（沖縄の代表的な蝶類）

アゲハチョウ科、タテハチョウ科、シロチョウ科、シジミチョウ科、他約100点

〈絵 画〉

旅姿女人図（筆者不詳）、進貢船の図（筆者不詳）、琉球風姿画全〔折本〕（昌與筆）

〈書 跡〉

対句（鄭嘉訓書）、七言絶句（周煌書）

〈織 物〉

芭蕉チジャハジャー着物、木綿紺地花織ティーサージ、木綿白地花織ティーサージ

〈紅 型〉

木綿桃色地斜格子に扇文箱菊橘梅文様衣裳、紅型型紙、桐板白地鉄線花繫文様裂地、
麻白地山道文様裂地

〈漆 器〉

朱漆巴紋牡丹七宝繫沈金食籠台、黒漆山水螺鈿六角食籠、朱漆松竹梅箋繪湯庫、朱漆山水樓閣堆錦重箱

〈陶 器〉

赤絵花鳥文抱瓶、家紋入嘉瓶、二彩流筒花生、アンダガーミ、赤絵鶴松竹文鶴首、なまこ釉からから、飴釉流なまこ釉香炉、赤絵撫子文碗、赤絵魚文皿

〈彫 刻〉

玉陵石彫獅子（レプリカ）

〈歴 史〉

拓 本

万歳嶺記、円覚禪寺記、崇元寺之前之碑文〔下馬碑〕（両面）、山北今帰仁城監守來歴碑記（表面）、総官野国由来記、新修美栄橋碑記（両面）、迎恩（扁額）、善行家風（掛床）、ようとれのひもん、伊是名玉御殿内石獅子

その他

琉球通宝等古銭類、勾玉

〈考 古〉

港川人頭骨(レプリカ)、荻堂式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器、石斧、磨石、叩石、凹石

〈民 俗〉

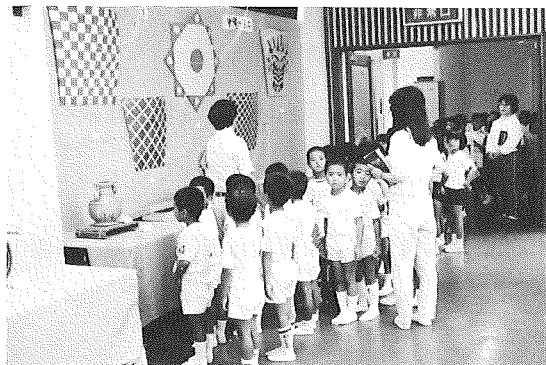
竹製品 かめ型花籠、縄耳付花籠、山形立差花籠、窓の月花籠、蘇鉄差花籠、ナス型花籠、丸竹花台、紙屑入籠、丸竹満月花生、南瓜型花籠、ウーバーラー、二つ籠、壁掛一輪生、手付果物盛籠、水切籠、四つ目平ざる、手まり型一輪差、桶型一輪生、文庫、竹行李

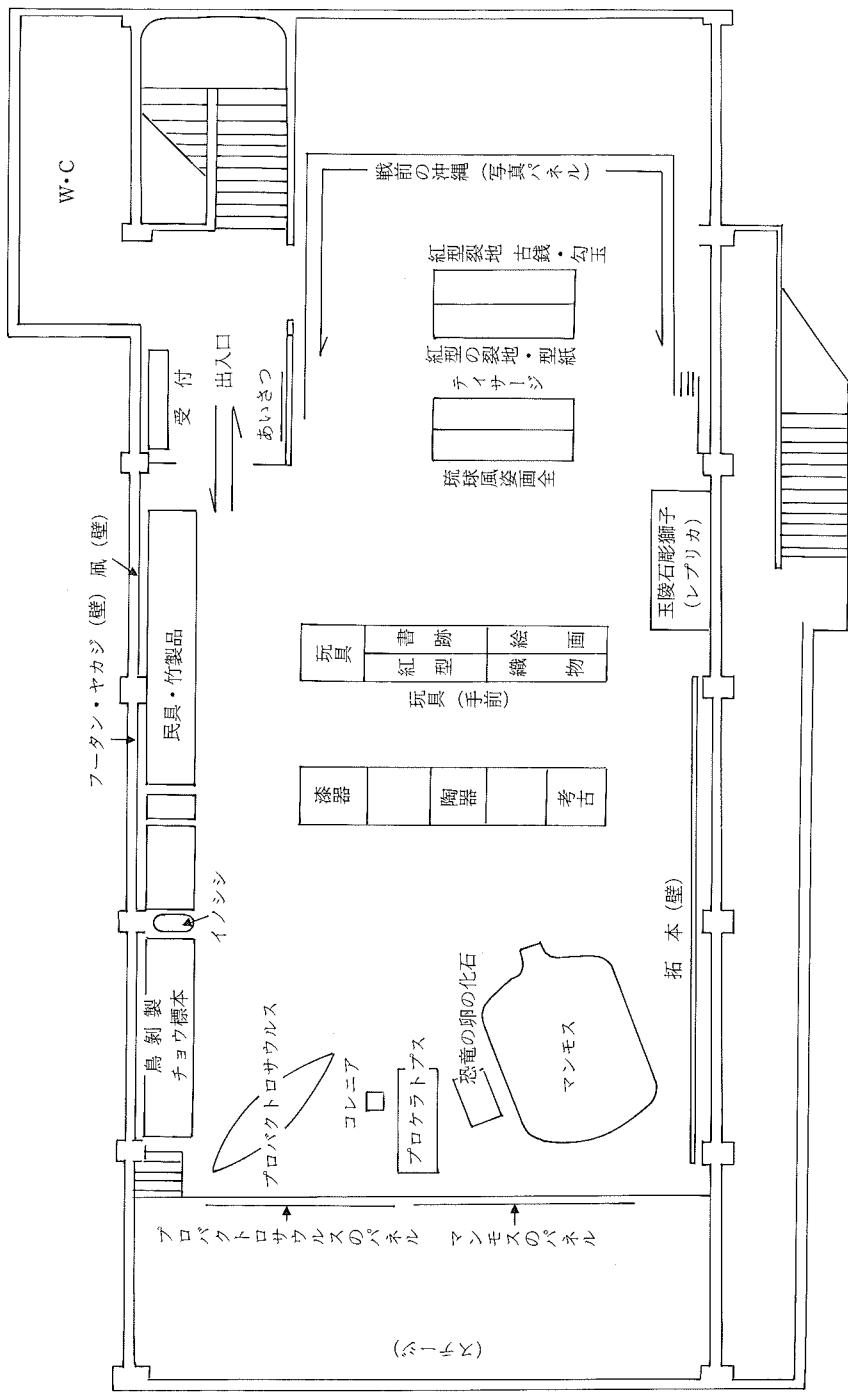
凧 龍凧、八角凧、フータン、宮古凧、日の出凧、ヤカジ凧、八重山角凧

玩具 ヤカジ、コイ乗り童子、タウチー、ウッチャリクブサー、ホートゥグワー、シシメーサー、ジュリグワーブトゥキー、チンチンウマグワー、ハーリーブニ

〈戦前の沖縄(写真パネル)〉

首里城守礼門、首里城歓会門、園比屋武御嶽石門、円覚寺山門、弁ヶ嶽大嶽石造拝殿、首里城正殿、首里城白銀門、首里那覇全図、玉陵、競馬、闘牛、市場、農家、葬列、サーターサー、カーミ市、辻原の亀甲墓、魚市場、機織り、布市場、魚売り、壺屋の陶工、臼作り、その他





移動博物館展示略図 (多良間村立中央公民館) フロア部分 (257.8m²)

IV 教育普及活動

1 博物館文化講座

- 第148回 「発掘された首里城正殿跡」 4月18日（土）
講師：当真嗣一（県教育庁文化課主幹） 参加者 86名
内容：首里城正殿跡について話したあと、首里城正殿跡発掘現場で解説する。
- 第149回 「沖縄のかじ屋」 5月23日（土）
講師：朝岡康二（沖縄県立芸術大学教授） 参加者 56名
内容：沖縄の伝統的なかじ技術を本土や中国、東南アジアと比較解説する。
- 第150回 「沖縄の化石人」 6月27日（土）
講師：知念 勇（沖縄県立博物館学芸課長） 参加者 46名
内容：県内から出土した旧石器時代人について、港川人などの化石人骨を見ながら解説する。
- 第151回 「紅型教室」 7月24日（金）～26日（日）
講師：藤村玲子（染織家） 参加者 17名
内容：小学校高学年～中学生を対象として、簡描きの技法で紅型を染める。
- 第152回 「親子民具教室（ワラ細工）」 8月2日（日）
講師：上江洲均（沖縄県立博物館副館長） 参加者 60名
内容：ワラでホウキ・馬などの民具をつくる。
- 第153回 「拓本教室」 8月15日（土） 参加者 19名
講師：崎間麗進（沖縄県文化財保護審議会専門委員）
上江洲敏夫（沖縄県立図書館主任専門員）
与那嶺美和子（沖縄県文化財修理技術者協会会員）
内容：拓本のとりかたを解りやすく指導する。
- 第154回 「沖縄織物の図案（御絵図）」 9月19日（土）
講師：大城志津子（沖縄県立芸術大学教授） 参加者 40名
内容：当館収蔵の御絵図を中心として、沖縄の絣文様について解説する。
- 第155回 「沖縄近代の絵画 展示解説会」 10月31日（土）
講師：神山泰治（琉球大学助教授） 参加者 18名
内容：物故作家と沖縄近代の絵画についての話をした後、特別展「沖縄近代の絵画」—物故作家展—の展示を見ながら解説する。
- 第156回 「北部史跡めぐり」 11月8日（日）
講師：知念 勇（沖縄県立博物館学芸課長） 参加者 42名
内容：今帰仁グスクを中心として、北部の史跡を現地で解説する。
- 第157回 「田名家所蔵品展 展示解説会」 12月5日（土）

講師：田名真之（那覇市文化振興課） 参加者 50名
内容：田名家とその所蔵品についての話をした後、企画展「田名家所蔵品展」
の展示をみながら解説する。

- 第158回 「現代沖縄の陶芸 展示解説会」昭和63年1月16日（土）
講師：宮城篤正（浦添市立図書館長） 参加者 31名
内容：天野鉄夫氏と現代沖縄の陶芸について話をした後、企画展「現代沖縄
の陶芸」の展示を見ながら現代沖縄の陶芸の流れを解説。
- 第159回 「ボルネオの熱帯降雨林」2月6日（土）
講師：宮城康一（琉球大学講師） 参加者 15名
内容：ボルネオの熱帯降雨林と琉球列島の亜熱帯林との違いをスライドを見
ながら解説する。
- 第160回 「ヤンバルの自然」 3月5日（土）
講師：宮城邦治（沖縄国際大学助教授） 参加者 31名
内容：ヤンバルの動物・植物の紹介とその保護についてスライドでもって解
説する。

2 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁数)	内容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B5(12)	新収蔵品を紹介する図録
第11回移動博物館パンフレット	不定期	1,000	B5(4)	展示を紹介したリーフレット
沖縄県立博物館年報 No20	定期	500	B5(47)	前年度の当館の活動状況の報告
沖縄近代の絵画—物故作家—	不定期	1,000	B5(55)	特別展を紹介する図録
ある首里士族の400年	不定期	500	B5(52)	企画展「田名家所蔵品展」図録
現代沖縄の陶芸	不定期	1,000	B5(53)	同名企画展を紹介する図録
沖縄の織物	不定期	1,000	B5(77)	沖縄の織物を紹介する普及書
沖縄県立博物館紀要 第14号	定期	1,000	B5(68)	学芸員の調査研究報告
総合調査報告書 V 濱底島	不定期	1,000	B5(42)	学芸員の調査研究報告
利用の手引き	不定期	3,000	B5(26)	博物館見学、利用のための案内書
ポスター	定期	1,000	半切	次年度の当館行事案内
リーフレット	不定期	3,000	A4三折	当館の展示等を紹介

V 調査研究活動

62年度の当館職員の調査研究活動とその成果は以下の通りである。

1 調査研究

上江洲 均（副館長）

○墓地及び厨子甕調査（勝連町）

期 間：昭和62年6月2日～3日（2日間）

依頼機関：勝連町教育委員会

○国内資料調査委員会（札幌市）

期 間：昭和62年10月21日～24日（4日間）

目 的：民俗文化財（民具）の研究会

依頼機関：国立民族学博物館

○宜野座村民俗調査

期 間：昭和62年5月～6月（土、日のみ）

目 的：漁撈・年中行事・住居等の調査

依頼機関：宜野座村

○伊是名村民俗調査

期 間：昭和62年7月～8月（土、日のみ）

目 的：固有信仰の調査

依頼機関：伊是名村

○県内家譜調査

期 間：昭和62年12月20日～23日（4日間）

目 的：家譜の確認調査と撮影

依頼機関：県教育庁文化課

○瀬底島の民俗調査（県立博物館総合調査）

期 間：昭和63年1月～3月（5日間）

目 的：瀬底島の水に関する調査

知念 勇（学芸課長）

○勝連町南風原集落跡発掘調査

期 間：昭和62年6月19日～20日

依頼機関：教育庁文化課

○宜野座村遺跡及び集落の調査

期 間：7月4・5・12・26、8月2・9・16日

依頼機関：宜野座村史編集委員会

○瀬戸内町の遺跡調査（台湾大学教授 宋文薰教授と共同研究）

期 間：昭和62年8月17日～20日

依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

○浦添市基地内遺跡調査（嘉門貝塚他）

期 間：昭和62年10月12日

依頼機関：浦添市教育委員会

○読谷村長浜吹出原遺跡発掘調査

期 間：昭和62年10月1日～12月7日

○壺屋窯跡調査

期 間：昭和63年3月15日～25日

依頼機関：那覇市教育委員会

日越国昭（教育普及課長）

○国頭郡天然記念物緊急調査

期 間：昭和62年7月～63年3月

目 的：国頭郡の天然記念物の現状とその保護のための基礎調査

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

結 果：沖縄県天然記念物緊急調査III 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集 沖縄県
教育委員会に報告

○辺野喜川上流伐採残存林の現況その1 残存林の構造について

期 間：昭和62年6月～9月

目 的：森林伐採が生物に及ぼす影響についての基礎的データの収集

依頼機関：沖縄生物教育研究会

結 果：昭和62年度沖縄生物教育研究会研修会にて発表

○沖縄県立博物館総合調査

期 間：昭和63年2月～3月

目 的：瀬底島の植生の概況調査

結 果：沖縄県立博物館総合調査報告書V—瀬底島—にて報告

高良倉吉（主査）

○首里城正殿予備設計委員会

期 間：昭和62年4月1日～同63年3月31日（1年間）

目 的：首里城復元のための歴史・建築的な調査・検討

依頼機関：沖縄総合事務局開発建設部

結 果：首里城正殿予備設計報告書として刊行

○首里城公園基本設計委員会

期 間：昭和62年4月1日～同63年3月31日（1年間）

目 的：首里城公園（県営部分）の歴史的調査・検討

依頼機関：沖縄県土木建築部都市計画課

結 果：首里城公園基本設計報告書として刊行

○伊是名村の銘苅家文書の調査

期 間：昭和63年2月6日～7日（2日間）

目 的：銘苅家の所蔵する古文書の解読・検討

依頼機関：伊是名村

結 果：伊是名村史中巻（島の古文書）として刊行

○宜野座村の古文書調査

期 間：昭和63年2月27日～28日（2日間）

目 的：土地関係証文・借金関係証文の調査・解読

依頼機関：宜野座村

結 果：宜野座村誌第4巻（文献資料）として刊行

○評定所文書の調査

期 間：昭和63年2月21日～25日（5日間）

目 的：東京大学法学部所蔵の文書の調査・検討

依頼機関：浦添市教育委員会

結 果：琉球王国評定所文書第1巻として刊行

津波古聰（充指導主事）

○諸職関係民俗文化財調査

期 間：昭和62年12月～昭和63年1月

依頼機関：県教育庁文化課

目 的：県内に伝承されてきた諸職関係の伝統的工芸技術を調査（国庫）

結 果：昭和63年3月、調査報告書刊行

○読谷村、石川市の織物調査（県立博物館総合調査）

期 間：昭和62年2月10日、11日

目 的：読谷村、石川市の博物館・資料館収蔵の織物調査

結 果：昭和63年3月、「沖縄の織物」として（普及書）刊行

千木良芳範（充指導主事）

○辺野喜川上流伐採残存林における真正クモ類の調査

期 間：昭和62年6月～9月

目 的：森林伐採が生物に及ぼす影響についての基礎的データーの収集

依頼機関：沖縄生物教育研究会

結果：昭和62年度沖縄生物教育研究会研修会にて発表

○山原地域の側溝における小動物の落下について

期間：昭和62年7月～昭和63年7月

目的：林道に設置された側溝に落ち込んで死亡する小動物の概要を把握し、その保護のための情報を収集する

依頼機関：世界野生生物基金日本委員会（WWF J）

結果：昭和63年10月報告書作成

○多良間島における両生爬虫類についての確認調査

期間：昭和62年6月4日～9日

目的：多良間村の両生爬虫類調査

○瀬底島における真正クモ類の調査（県立博物館総合調査）

期間：昭和62年11月～昭和63年2月

目的：瀬底島の真正クモ類についての概況を把握する

依頼機関：沖縄県立博物館

松本 隆（主事）

○瀬底島の民俗調査（県立博物館総合調査）

期間：昭和63年1月～3月（5日間）

目的：瀬底島の水に関する調査

2 著作論文

上江洲 均

○『南島の民俗文化』（ひるぎ社 昭和62年6月）

○〈資料紹介〉「川平朝房『可心得条々』」（『沖縄の宗教と民俗』第一書房 昭和63年3月）

○「沖縄の民具調査報告」（国立民族学博物館国内資料調査委員『調査報告集』8 昭和62年6月）

○「御嶽（伊江島・久米島・慶良間）」（『日本の神々』13巻 白水社 昭和62年11月）

○〈資料紹介〉「喜如嘉の土地売却証文類」（『沖縄県立博物館紀要』14号 昭和63年3月）

○〈民具紹介〉「ネズミとり箱」（県立博物館友の会機関誌『博友』昭和63年3月）

知念 勇

○「沖縄出土の中国陶磁について」（『第1回中琉歴史関係国際学術会議論文集』中琉文化経済協会主編 1887年10月）

○「縄文時代の沖縄」（『考古学ジャーナル』No.284 特集・沖縄の考古学 ニューサイエン

ス社 1987年12月)

- 一・池田栄史・江藤和幸「灰釉碗からみた近世沖縄古窯の編年」(『沖縄県立博物館紀要』第14号 1988年3月)

日越国昭

- 「安波のタナガーグムイの植物群落の植生」(共筆) (『国頭郡天然記念物緊急調査』III 国頭郡天然記念物調査シリーズ第30集 沖縄県教育委員会 1988年3月)
- 「田港御願の植物」(共筆) (『国頭郡天然記念物緊急調査』III 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集 沖縄県教育委員会 1988年3月)
- 「与那覇岳天然保護区域の植生」(共筆) (『国頭郡天然記念物緊急調査』III 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集 沖縄県教育委員会 1988年3月)
- 「大宜味御嶽のビロウ林」(共筆) (『国頭郡天然記念物緊急調査』III 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集 沖縄県教育委員会 1988年3月)
- 「瀬底島の植生の概況」(『県立博物館総合調査報告書』V 沖縄県立博物館 1988年3月)
- 「那覇市小禄金城公園(予定地)の植物」(共筆) (『沖縄県立博物館紀要』14号 1988年3月)

高良倉吉

- 『琉球王国の構造』(中世史研究選書) (吉川弘文館 昭和62年10月)
- 「伊是名玉御殿をめぐる諸相」(『沖縄の宗教と民俗』第一書房 昭和63年3月)
- 「首里城正殿に関する建築史年譜」(『沖縄県立博物館紀要』第14号 昭和63年3月)
- 「瀬底島の史料に関する若干の考察」(『県立博物館総合調査報告書』V 昭和63年3月)

津波古聰

- 「陶器関係—陶工—」(『沖縄県の諸職』文化財調査報告書第87号 沖縄県教育委員会 昭和63年3月)

千木良芳範

- 「多良間島の両生爬虫類について」(『沖縄県立博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館 昭和63年3月)
- 「冬季の瀬底島における造網性クモ類について」(『県立博物館総合調査報告書』V 沖縄県立博物館 昭和63年3月)
- 『わたしたちの天然記念物』第1巻、動物たち(共著) (学習研究社 昭和63年3月)
- 『わたしたちの天然記念物』第2巻、鳥のなかま(共著) (学習研究社 昭和63年3月)

- 『わたしたちの天然記念物』第3巻、は虫類・両生類・魚・こん虫（共著）（学習研究社 昭和63年3月）
- 『わたしたちの天然記念物』第7巻、美しい大自然（共著）（学習研究社 昭和63年3月）

松本 隆

- 「瀬底島のアニガー」（『県立博物館総合調査報告書』V 沖縄県立博物館 昭和63年3月）

VI 収蔵資料

1 収蔵資料現在高

受理次第		昭和63年3月31日現在					
分類		購入	寄贈	収集	移その他	小計	総計
自然資料	地質	629	439	7	17	1,092	7,693
	動物	901	4,371	467	12	5,751	
	植物	—	850	—	—	850	
美術工芸	絵画	63	291	1	—	355	7,307
	書跡	144	243	40	3	430	
	彫刻	4	100	138	—	242	
	陶磁器	421	3,205	251	490	4,367	
	漆器	220	207	156	—	583	
	染織	1,040	281	9	—	1,330	
歴史資料		408	3,193	340	84	4,025	4,025
考古資料		9	945	756	—	1,710	1,710
民俗資料		540	2,313	575	73	3,501	3,501
総計		4,379	16,438	2,740	679	24,236	24,236

2 昭和62年度収蔵資料および目録

昭和62年度収蔵資料

昭和63年3月31日現在

受理次第		昭和63年3月31日現在					
分類		購入	寄贈	収集	移その他	小計	総計
自然資料	地質						
	動物						
	植物						
美術工芸	絵画		1			1	11
	書跡	2				2	
	彫刻						
	陶磁器	6				6	
	漆器	1	1			2	
	染織						
歴史資料			7	1		8	8
考古資料			9	1		10	10
民俗資料		18	154	69		241	241
総計		27	172	71		270	270

昭和62年度新収蔵資料目録

寄贈の部 (172)

分類	品名	数量	寄贈者名	住所
民俗資料	ウス(木臼)	1	関谷秀男	与那原町
	サゲゾーキ	1	〃	〃
	鼠捕り器	1	某氏	那霸市
	国民体育大会旗他	9	沖縄県国体事務局	〃
	なごや帯	1	多和田真昌	宜野湾市
	草履(竹皮製)	1	熊野権現	大分県

購入の部 (27)

分類	品名	数量
美術工芸	書跡 林鴻年書(軸物) 何冠英書(軸物)	1 1
	漆器 黒漆・山水樓閣人物螺鈿印籠	1
	陶器 線彫魚文大皿(他)	6
民俗資料	三味線(久場春殿型)	1
	哨吶	1
	七絃琴	1
	琵琶	1
	八角弦(梅花弦)	1
	月琴	5
	揚琴(洋琴)	2
	横笛	1
	拍板(三板)	1
	京胡	2
	二胡	1
	殼子弦(抜胡)	1

収集の部 (71)

分類	品名	数量
歴史資料	琉球新建儒学碑記(残欠)	1
考古資料	磨石	1
民俗資料	ユイ(篩)	1
	骨壺	3
	石厨子	16
	壺型厨子甕	20
	ボージャー厨子甕	21
	素地御殿型厨子甕	4
	赤焼御殿型厨子甕	2
	壺型庇つき厨子甕	1
	イカジー	1

3 所蔵国県指定文化財

国指定文化財重要文化財

昭和63年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍 〃	お も ろ さ う し 混 効 驗 集	22冊 2冊	昭48. 6. 6 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
工 芸 〃	銅 鐘 (旧首里城正殿鐘) 梵 鐘 (旧円覚寺殿前鐘)	1口	昭53. 6.15	県立博物館	沖縄県
〃	梵 鐘 (旧円覚寺殿中鐘)	3口	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧円覚寺樓鐘)				

県指定文化財有形文化財

昭和62年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻 〃	木彫円覚寺白象並びに趣意書 世持橋勾欄羽目	1軸1枚 1括	昭33. 3.14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
絵 画 〃	絹本着色花鳥図 (殷元良筆) 紙本着色雪中雉子の図 (殷元良筆)	1幅 〃	昭54. 4. 9 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
〃	紙本墨画竹の図 (殷元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図 (朱雀年筆)	1巻	〃	〃	〃
工 芸 〃	三味線江戸与那 聞得大君御殿雲龍黄金簪	1挺 1本	昭33. 8.15 昭33. 3.14	県立博物館	沖縄県 〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌栗絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧靈応寺鐘)	1口	昭60. 6. 1	〃	〃
〃	梵鐘 (旧普門禪寺鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧天竜精舎鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧天尊殿鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧一品種權現鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠 (旧波上宮朝鮮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧大安禪寺鐘)	〃	昭63. 1.12	〃	〃
典 籍 〃	評定所格護定本 中山世鑑 〃 中山世譜	6冊 19冊	昭31.12.14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
書 跡	程順則の書	1巻	昭42. 4.11	県立博物館	沖縄県
古 文 書 〃	宮古島下地の首里大屋子への辞令書 明孝宗より琉球國中山王尚真への勅書	1幅 1巻	昭31.12.14 昭49.11.11	県立博物館	沖縄県 〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3.20	〃	〃

VII その他の活動

1 資料貸出

- ① 歴史：板敷橋石碑、他1点
期間：昭和62年8月21日～8月31日 名称：石碑展
主催：南風原町教育委員会 会場：南風原中央公民館
- ② 歴史：安国山樹花木記碑、他拓本パネル8点
期間：昭和62年9月30日～10月9日 名称：首里城写真展
主催：沖縄総合事務局 会場：ダイナハ
- ③ 歴史・美術工芸：徐葆光書軸、他35点
期間：昭和62年11月2日～11月12日 名称：冊封使展—那霸・福州交流六百年史—
主催：那霸市 会場：那霸市民ギャラリー
- ④ 美術工芸：琉球切手原画「赤絵碗」、他10点
期間：昭和62年11月25日～11月30日 名称：1987年全琉切手展
主催：沖縄郵趣連盟 会場：那霸東郵便局
- ⑤ 美術工芸：斜格子文抱瓶、他28件57点
期間：昭和63年3月31日～7月11日 名称：人間国宝・金城次郎のすべて
主催：朝日新聞社 会場：小田急百貨店、他三会場
- ⑥ 考古：荻堂式土器2点
期間：昭和62年4月18日～63年3月3日 名称：常設展 日本のあけぼの
主催：国立歴史民俗博物館 会場：同館

2 燻蒸処理

当博物館では資料保存のため、例年燻蒸を行っている。昭和62年度は、6月29日から7月6日まで、展示室も含めた大がかりな燻蒸を実施した。従来行っていた1階収蔵庫・地下収蔵庫・漆器収蔵庫の他に、各展示室と首里城正殿模型・扁額をメチルプロマイドによって燻蒸し、その他事務室、講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行った。毎年行われている展示替えは、展示室が燻蒸されることから、事前に行われた。なお、展示室の燻蒸は58年度以来のことである。

3 沖縄県博物館協会

昭和62年度の沖縄県博物館協会の総会並びに研修会は、5月8日(金)、県立博物館講堂において開催された。北は本部・今帰仁から南は八重山・竹富島までの22団体、71人が参

加した。総会では、役員改選、昭和62年度事業、次期総会開催地、等について審議決定された。また総会終了後の研修会では、上江洲敏夫氏と当間恵喜氏から、美術工芸資料の保存修理方法や取り扱いについて講習を受けた。実技を交えた指導で好評であった。

秋の第2回研修会は10月7日（水）～9日（金）までの日程で、石垣市市民会館で催された。石垣市立八重山博物館長の波名城泰雄氏による「琉球の印章」と題した講演、および篆刻教室が好評を博した。第2回研修会のもうひとつの目玉は、竹富島の「種取祭」見学であった。研修会の日程の都合上、10日余におよぶ祭りの全体像をみることはできなかつたが、8日（木）の世持御嶽前広場の特設舞台における踊りや狂言、その夜の終わり無きかのようなユークイを見ることができた。噂に違わず、島の人たちの盛り上がり、祭りの盛り上がりは圧巻であった。

4 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は昭和55年「県立博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかること」を会の目的として結成された。博物館の事業に積極的に参加するだけでなく、独自の講演会や県内各地の史跡、伝統工芸所などの見学などを行ってきた。また、昭和60年度からは、海外研修旅行も実施され活動内容も充実してきた。当初は30名足らずの会員だったが年々増加し、昨年度は220名を突破した。昭和62年度に実施された友の会事業は次のとおりである。

① 講演会

「常設展示解説会民俗室」・昭和62年6月13日（土）・講師：上江洲均副館長・参加者23名。

「北部の史跡めぐり」・7月5日（土）・講師：知念 勇学芸課長・参加者38名。

「歴史講座中国と琉球との関係」・7月18日・講師：高良倉吉・参加者40名。

「自然講座沖縄の薬草」・9月5日（土）・講師：多和田真淳・参加者13名。

「首里城周辺めぐり」・10月3日（土）・講師：宮里朝光・参加者11名。

② 研修旅行

「中国研修旅行敦煌コース」・7月27日～8月6日・参加者18名。

「離島めぐり 石垣・竹富・西表島研修旅行」・11月21日～11月23日・参加者33名。

③ 発行事業

機関誌「博友」・会報「赤い瓦」・「沖縄近代の絵画 物故作家展 図録」・「田名家所蔵品展 図録」・「沖縄の織物」を発行。

VIII 日誌抄 (昭和62年4月1日～昭和63年3月31日まで)

- 4月1日 人事異動。入館料値上げ。
- 10日 日本生命財団助成になる「沖縄県立博物館総合案内」の贈呈式（知事室）
- 13日 宮崎市某氏より「中国・琉球関係古楽器」を18点購入。
- 16日 具志堅古嘉氏へ紺綬褒章伝達式（教育長室）
- 17日 社会教育行政連絡会議（青年会館）
- 18日 第148回博物館文化講座「発掘された首里城正殿跡」講師：当真嗣一氏（県文化課主幹兼文化財係長）
- 19日 静岡市文化財資料館長松田英美氏来館。
- 5月1日 国立歴史民俗博物館教授岩井宏実氏来館。解説員2人採用。衣更え。
- 2日 葉梨信行自治大臣一行来館。
- 7日 県生涯教育推進会議（青年会館）
- 8日 沖縄県博物館協会総会並びに研修会（当館。参加者73人）
- 10日 元大阪市立博物館長平山敏治郎氏夫妻来館。
- 11日 三線鑑賞会（当館会議室）
- 12日 消防点検。
- 13日 「新収蔵品展」開催（24日まで）
- 14日 九州博物館協議会総会（於長崎。16日まで、館長）
- 15日 祖国復帰15周年記念日。
- 18日 博物館友の会の総会と懇親会。
- 20日 東京都議会議員一行23人来館。群馬県上武大学顧問山川武正氏来館。
- 21日 行革審委員亀井正夫氏（住友電工会長）来館。
- 23日 第149回文化講座「沖縄のかじ屋」講師：朝岡康二氏（沖縄県立芸大教授）
- 25日 電気点検（沖縄保安協会）
- 26日 2階展示ケース、事務室改装工事説明会（7社）
- 29日 「移動博物館」の梱包作業。工業技術連絡会議一行100人来館。
- 6月1日 「移動博物館」の展示資料搬出。
- 6日 「移動博物館」開催（7日まで、多良間村）
- 9日 城真忠明氏（ハワイ在住）より与那型三線の寄贈を受ける。
- 11日 中国河北省霍明華氏ら6人来館。
- 13日 博物館友の会展示解説会——「民俗室」講師：上江洲均（副館長）
- 16日 中国吉林省視察団一行来館。
- 19日 国立国会図書館顧問陶山国見氏来館。
- 20日 タイ国医師チン・マイ氏来館。
- 23日 「慰靈の日」につき休館。館長室改修工事。

- 24日 警察庁長官山田英雄氏来館（県警本部長案内）
- 25日 2階ロビー固定展示ケース、事務室改修工事完了検査。
- 26日 台湾の作家黃春明氏来館。新垣副知事来館。
- 27日 第150回文化講座「沖縄の化石人たち」講師：知念勇（学芸課長）。元福岡市立博物館長三島格氏来館。
- 29日 夏季国体、浩宮殿下御視察下見（東宮侍従樺山和民氏ほか25人）。前庭のデイゴの撤去（移植）作業。
- 7月1日 全館燻蒸（3日まで）
- 4日 展示替え。
- 5日 博物館友の会主催「北部の史跡めぐり」講師：知念勇（学芸課長）
- 7日 台湾故宮博物院学芸員王・陳両氏来館。
- 8日 国際交流財団研修生一行29人来館。
- 11日 台湾中央研究院朱徳蘭女史来館。
- 16日 後方フェンス、玄関手すり、庭土止め、門扉工事完了検査。
- 18日 博物館友の会主催歴史講座「中国と琉球との関係」講師：高良倉吉（主査）
- 21日 沖縄総合事務局次長牧隆寿氏来館。
- 22日 旧大安禅寺の鐘が米国より返納寄贈され、この日贈呈式（泊高校）。式後直ちに館に搬入す。
- 23日 旧大安禅寺の鐘一般公開。
- 24日 第151回文化講座「紅型教室」講師：藤村玲子氏（染織家）、26日まで。
- 27日 博物館友の会中国研修旅行団出発（8月6日まで）。天野ハル氏より亡夫鉄夫氏収集のコケ類資料1,562点寄贈受ける。三線鑑賞会（会議室）
- 28日 天皇陛下御視察下見（宮内庁斎藤課長、ト部侍従ほか38名）。博物館学実習生7人受入れ（8月6日まで）
- 29日 名古屋大学助教授渡辺誠氏来館。
- 8月1日 中日新聞へ石獅子2点貸出。
- 2日 第152回文化講座「親子民具教室」（わら細工）講師：上江洲均（副館長）・松本隆（学芸員）
- 3日 敷地内裏側整地作業。
- 4日 宜野湾市郷土資料館建設プロジェクト一行8人視察のため来館。
- 6日 城西小学校教職員一行、研修で来館。
- 7日 岡山県知事長野土郎氏一行来館。
- 11日 崎山嗣昌氏作「張り子玩具」の型等75点寄贈を受ける。
- 13日 警察庁新田勇警備局長ほか5人来館。
- 14日 国体身障者大会（かりゆし大会）の皇太子殿下同妃殿下御視察下見（東宮侍従手塚英臣氏ら一行30人）。西南大学教授山中耕作氏来館。

- 15日 第153回文化講座「拓本教室」講師：崎間麗進氏・与那嶺美和子氏（以上拓本研究会）、上江洲敏夫（県立図書館）。九州管区警察局通信運用課長一行6人来館。
- 21日 台湾大学教授宋文薰氏来館。
- 24日 三線鑑賞会。
- 25日 厨子甕収納庫、前面フェンスその他工事完了検査。
- 26日 中国仏教協会会长趙樸初氏（冊封使趙文楷の子孫）来館。福建師範大学副教授謝撥揚氏来館。香川県警部植田氏ほか10人、警視庁10人下見。
- 27日 厨子甕移動（28日まで）
- 30日 台風12号のため休館。高倉の屋根半壊。樹木の枝折れ多し。
- 31日 台風の後片づけ。玄関庇部分のペンキ塗り替え工事完了。県警本部長来館。
- 9月1日 警察庁次長金澤昭雄氏来館。
- 2日 神社本庁事務局長吉田玄蕃氏来館。
- 5日 博物館友の会主催文化講座「沖縄の薬草」講師：多和田真淳氏（薬草研究家）
- 8日 那覇警察署員16名により館内点検（実査）
- 10日 神奈川県教育委員会委員長高橋長世氏ほか7人来館。
- 11日 社会教育行政連絡会議（県立図書館）。裏庭の産業廃棄物処理。
- 14日 県知事、県議会議長行啓リハーサル。教育長行啓リハーサル。
- 15日 警備陣（応援部隊徳島県警）35人入営（講堂）
- 17日 県教育長行啓リハーサル。文部省助成局教職員課長佐々木正峰氏来館。高倉屋根葺き替え作業完了。
- 20日 浩宮殿下御視察。
- 26日 第154回文化講座「沖縄織物の図案（御絵図）」講師：大城志津子氏（県立芸大教授）。国立中央図書館台湾分館長朱大松氏ほか1人来館。
- 28日 久米島博物館建設視察団一行15人来館。三線鑑賞会（会議室）
- 29日 那覇地方裁判所長佐藤邦夫氏来館。
- 30日 参議院沖縄及び北方問題特別委員会一行来館。
- 10月1日 高円宮殿下御夫妻御視察下見。
- 3日 総務庁事務次官藤江弘一氏来館。鹿児島市長赤崎義則氏来館。東大名誉教授窪徳忠氏来館。博物館友の会主催文化講座「首里城周辺めぐり」講師：宮里朝光氏（友の会会长）
- 6日 防衛施設庁長官友藤一隆氏（那覇防衛施設局長富田修氏案内）、九州管区警察局長木村氏来館。
- 7日 沖縄県博物館協会研修会（石垣・竹富、8日まで）
- 13日 中琉文化経済協会中琉文物考察団長劉立民氏ほか5人、国立故宮博物院展覧組組長国功鑫氏来館。
- 14日 文部省教育助成局長加戸氏来館。博物館友の会から車椅子1台、スタンプ3点

寄贈を受ける。

- 15日 奈良国立文化財研究所長鈴木嘉吉氏、国会図書館支部図書館一行24人来館。
- 20日 スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画一物故作家一」開会式。福岡高等検察庁公安部長遠藤源太郎氏来館。広木幸子氏（東京、和田知事遺族より漆器と織物の寄贈あり）（県立図書館から引継ぎ）
- 21日 高円宮殿下御視察のためのリハーサル。国立故宮博物院（台湾）研究員王後華氏、陳朱文氏。国立オリンピック記念青少年総合センター次長大家秀夫氏来館。
- 23日 元ブラジル沖縄県人会長屋比久孟清氏ほか2人来館。
- 24日 大阪府教育委員会教育長浅野素雄氏ほか7人、科学技術庁長官三ツ林弥太郎氏ほか10人、大阪府議会議員依田きく子氏来館。
- 25日 首里郵便局臨時出張所開設（海邦国体期間中）。
- 26日 参議院議員、沖縄開発庁政務次官柳川覚治氏ほか6人、栃木県知事渡辺文雄氏ほか3人、京都府知事荒巻禎一氏ほか10人、鳥取県知事西尾邑次氏ほか2人、全国銀行協会連合会特別顧問田辺博通氏来館。
- 27日 札幌市教育次長柿本伸之氏、ハワイ州知事夫人一行20人来館。
- 28日 沖縄振興開発金融公庫監事水谷弘氏来館。
- 29日 千場総合運動場長清家孝氏来館。
- 31日 高円宮殿下同妃殿下御視察。
第155回文化講座「沖縄近代の絵画」展示解説会、講師：神山泰治氏（琉球大学助教授）
- 11月 1日 ユネスコ「国際交流活動研修」一行20人来館。本日より警察官2人常駐警備。
- 2日 那覇市主催「冊封使展」へ展示物貸出（9日まで）。岐阜県警下見。県警屋上に無線設置。
- 3日 文化の日（開館）。首里文化祭（前道路14:00—21:00歩行者天国）
- 6日 岐阜県警一行35人講堂に配備（13日まで）。文部省大臣官房審議官福田昭昌氏ほか2人来館。
- 7日 福島県知事松平勇雄氏来館。
- 8日 第156回文化講座「北部の史跡めぐり」講師：知念勇（学芸課長、42人参加）
- 9日 島袋金丈氏（ボリビア在）より三葉虫化石12点寄贈受ける。広報課下見（リハーサル）。県環境保健部より特別奉迎者救護の調査。警備陣館内施設等のチェック。
- 10日 ヨーロッパ教員一行24人、皇宫警察一行8人来館。
- 11日 ブラジル沖縄文化資料館長宮城松成氏、同沖縄文化センター常任理事花城清賢氏ほか4人来館。文字文化研究所長中田勇次郎氏来館。
- 13日 皇太子殿下、同妃殿下御視察。
福岡高等裁判所長官井口牧郎氏ほか5人、山梨県厚生部次長若尾勲氏ほか2人、ハワイ大学教授崎原貢氏来館。

- 14日 中国求恩医科大学教授王淑琴氏、中国衛生部原氏ほか1人来館。首里郵便局臨時出張所を開設（16日まで）
- 15日 函館短大教授大石圭一氏来館。
- 16日 身障者スポーツ大会（かりゆし大会）参加の選手役員一行1089人来館。
- 17日 兵庫県議会議員一行18人来館。
- 18日 博物館協議会開催。
- 19日 宮崎県議会議長堀之内砂男氏来館。
- 21日 中華人民共和国大使館参事官徐源海氏ほか3人、九州地区教育委員長一行10人来館。
- 25日 県文化財保護審議会専門委員会（第一専門部会）、旧大安禪寺梵鐘の県指定の件で会議（会議室）。
- 26日 熊本県八代市教育委員長古閑雄幸氏、教育長渡速氏ほか4人、日本民芸協会一行60人（永六輔氏案内）来館。
- 27日 文部省地方課長岡林隆氏来館。
- 28日 元沖縄開発庁長官山野幸吉氏ほか2人、沖縄開発庁総務局長勝又博明氏来館。
- 30日 三線鑑賞会。
- 12月 1日 企画展「田名家所蔵品展」開会式（協賛麻姓宗家田名家、後援沖縄タイムス社、13日まで）。衆議院議員宮里松正氏来館。
- 4日 沖縄博物館協会理事会（会議室）
- 5日 第157回文化講座「田名家所蔵品展」展示解説会、講師：田名真之氏（那覇市文化振興課）
- 8日 国税庁長官官房人事課長川上寿一氏来館。
- 9日 元大阪市立博物館長平山敏治郎氏夫妻、伊是名村長伊礼幸正氏来館。
- 10日 東京国税局長門田実氏来館。博物館友の会運営委員会（会議室）
- 11日 クロオビハゼ琉大より寄贈。多和田真昌氏（宜野湾）より漢那憲和氏夫人の帶の寄贈あり。
- 14日 三線鑑賞会（会議室）
- 17日 文化庁記念物課主任調査官安原啓示氏来館。
- 18日 企画展「現代沖縄の陶芸——天野鉄夫コレクション」開会式（1月17日まで）、日本博物館協会からの表彰状を天野ハル氏へ伝達。人間国宝金城次郎氏来館。
- 21日 館内消防点検実施。
- 22日 農林水産省統計情報部首席統計管理官今野辰治氏来館。
- 昭和63年
- 1月 8日 九州芸術工科大学付属図書館長沢村仁氏来館。
- 16日 第158回文化講座「現代沖縄の陶芸」展示解説会、講師：宮城篤正氏（浦添市立図書館長）

- 18日 博物館友の会の総会並びに新年宴会。
- 19日 大正大学助教授多田孝正氏ほか3人、仏教関係資料調査のため来館。普及書「沖縄の織物」作成の編集会議。
- 20日 フィリピン国立博物館副館長アルフレド・E・エバンゲリスト氏、文部省社会教育局社会教育官橋本幹夫氏来館。
- 21日 会計検査院第五局長三原英孝氏、消防大学校副校長城野欣也氏来館。
- 22日 沖縄開発庁振興局長塚越則男氏来館。
- 25日 三線鑑賞会。
- 26日 国立療養所邑久光明園長原田禹雄氏来館。
- 28日 消防訓練（自衛消防団、那覇消防署の指導による）
- 29日 鹿児島経済大学教授山下欣一氏、東部消防署長山川氏、法政大学徳武敏夫氏来館。
- 2月2日 米国務省日本語研修所理事官補ジョン・D・ウッドワード氏来館。
- 6日 第159回文化講座「ボルネオの熱帯雨林」講師：宮城康一氏（琉球大学）。北京「中国画報」一行5人来館。
- 7日 国會議員井上氏ほか6人来館。
- 10日 中華人民共和国外交部林墨卿氏（林則徐の孫）の夫人来館。
- 15日 広島修道大学教授石塚尊俊氏来館。
- 16日 沖縄開発庁振興第二課長堤氏来館。
- 17日 九州地区人事委員長会一行、与那国町教育委員一行4人来館。「学習ノート」委員会（会議室）。
- 19日 長崎県議会議長初村誠一郎氏外議員一行15人来館。経済団体連合会関西事務所長末吉哲郎氏来館。
- 22日 沖縄開発庁開発建設部長廣本文泰氏来館。（株）経済法令研究会総務部長成田栄造氏より「朱漆硯箱」1点寄贈あり。
- 23日 東京大学教授（国際日本文化研究センター教授）埴原和郎氏来館。
- 24日 南カリフォルニア大学国際政経学部教授ペーター・A・バートン氏来館。
- 27日 大蔵省主税局税制第二課長薄井信明氏ほか2人来館。
- 29日 三線鑑賞会。
- 3月1日 日本青年会議所鹿児島ブロック協議会長秋元耕一郎氏ほか6人来館。
- 2日 中国福建省映画製作隊林鳴群氏ほか5人来館。
- 4日 三和銀行副頭取神田延祐氏来館、神奈川県工芸指導所長福島保治氏来館。
- 5日 中華人民共和国駐日大使館一等書記官張光珮氏ほか3人来館。
第160回文化講座「ヤンバルの自然」講師：宮城邦治氏（沖国大学助教授）。
- 7日 庭園美化作業（総合造園）
- 8日 毛利博物館館長臼杵華臣氏ほか1人梵鐘調査で来館。首里城復元期成会事務局

長仲吉朝佑氏来館。「学習ノート」(美術工芸)委員会。

- 10日 日本銀行監事和栗俊介氏、東京大学名誉教授窪徳忠氏来館。「学習ノート」(歴史)委員会。
- 11日 博物館協議会、辞令交付式及び第1回会議。
- 15日 国土庁地方都市問題懇談会一行7人来館。
- 22日 「学習ノート」(自然)委員会。
- 23日 勝富美江氏から亡夫公彦氏の和紙・芭蕉紙等の寄贈を受ける。朝日新聞西部本社主催の「人間国宝・金城次郎のわざ展」へ陶器57点貸出し(7月11日まで)。「学習ノート」(民俗)委員会。琉球大学池原貞雄氏来館。
- 26日 博物館友の会「歴史サークル」勉強会。
- 27日 国立科学博物館図書課長椎名仙卓氏博物館視察のため来館。
- 28日 三線鑑賞会。

IX 関係条例規則抄録

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年5月15日 条例第24号)

最終改正 昭和61年3月29日条例第14号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)

第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)

第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号)

最終改正 昭和61年7月1日教育委員会規則第5号

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関すること。

- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日） 〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに分布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（管理の責任）

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

（諸帳簿）

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

（施設設備の亡失）

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

（警備防災の計画）

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則（昭和53年9月28日教育委員会規則第5号）

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	昭和年月日
沖縄県立博物館長 殿	
申込者	
住所 氏名	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種別	
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 時価見積額	
8 寄贈の理由	

受諾書	
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
昭和年月日	沖縄県立博物館長

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	昭和年月日
沖縄県立博物館長 殿	
申請者	
住所 氏名	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託ください	
るよう申請します。	
記	
1 種別	
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 寄託期間	昭和年月日から 昭和年月日まで

第3号様式（第11条関係）

第4号様式（第18条関係）

博物館資料受託承認書	昭和 年 月 日	沖縄県立博物館長 謹
1 種別	2 作者名	3 作品名
4 製作年月日	5 附属品	6 受託期間
7 備考		

昭和 年 月 日付け申請のあつた博物館資料の寄託については、下記により受託します。

記

博物館施設使用許可申請書	昭和 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申請者氏名 電話
下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださるようお願いします。	
記	1 使用者 団体名 _____ 及び 代表者名 _____ 印 職業()
	2 使用目的 住所 所 電話
	3 使用する施設：1 ホール 2 臨時陳列室
	4 使用する日時及び期間 自：昭和 年 月 日 午 時 分 () 至：昭和 年 月 日 午 時 分 日間
	5 予定参加人員 人
	6 その他必要な資料（プログラム等）
月 日付申請の（ ）使用の件、申請どおり許可します。	許可書 昭和 年 月 日 沖縄県立博物館長

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日）
(教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行なうために必要とする費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日)
条例第37号

最終改正 昭和62年4月1日条例第24号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の徴収)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認められる者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和59年3月31日条例第16号抄)

- この条例は、昭和53年4月1日から施行する。
- この条例は、昭和59年4月1日から施行する。
- この条例は、昭和62年4月1日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料) (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.21

昭和 63 年 7 月 15 日 発行

編集・発行 沖 縄 県 立 博 物 館

住 所 沖縄県那覇市首里大中町 1 の 1

〒 903 T E L : 0988-84-2243

印 刷 文 進 印 刷 株 式 会 社

住 所 沖縄県那覇市上間 5 6 7

T E L : 0988-55-2323(代)